

協会けんぽ宮崎支部
ジェネリック医薬品使用状況統計資料
(2024年度)

2025年12月作成



全国健康保険協会 宮崎支部
協会けんぽ

目次

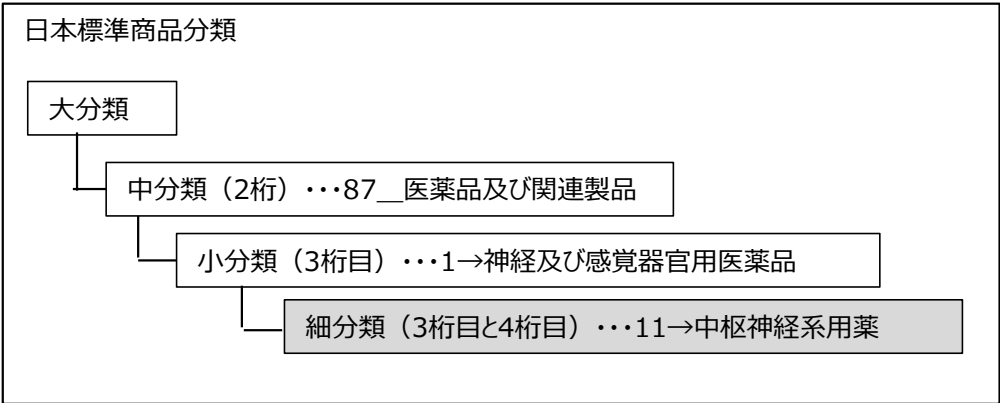
留意事項 2

宮崎支部の使用割合 3～4

薬効分類別の使用割合 5～14

年齢階級別・薬効分類別の使用割合 15～20

- 集計に使用したデータと留意事項
 1. 今回の集計には、「先発医薬品後発医薬品基本情報（旧：調剤基本情報）」（2024年度／2023年度）、および「医科・DPC・歯科・調剤に関する医薬品使用状況」（2025年3月診療分）を使用。なお、先発医薬品後発医薬品基本情報および医薬品使用状況は協会本部ホームページにも掲載されている。
 2. 情報は原則として協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプト（電子レセプトに限る）について集計したもの（算定ベース）である。
 3. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。
 4. 使用割合は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。
 5. 後発医薬品の収載月後には、初めて収載される先発医薬品があると、算出式の分母の対象となる先発医薬品が増えることにより、後発医薬品割合が低くなることもある。
 6. この資料の薬効分類名の前の数字は、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠した番号である（下図参照）。
 7. この資料でいう使用数量は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量で、「後発医薬品のある先発医薬品の数量」と「後発医薬品の数量」の合計であり、同一薬効分類の全ての薬剤を集計したものではない（後発医薬品のない先発医薬品の数量等は含まれない）。
 8. 記載している使用割合や増減ポイント数は、四捨五入した値を前提に記載しているため、端数処理の影響で数値が一致しない場合がある。

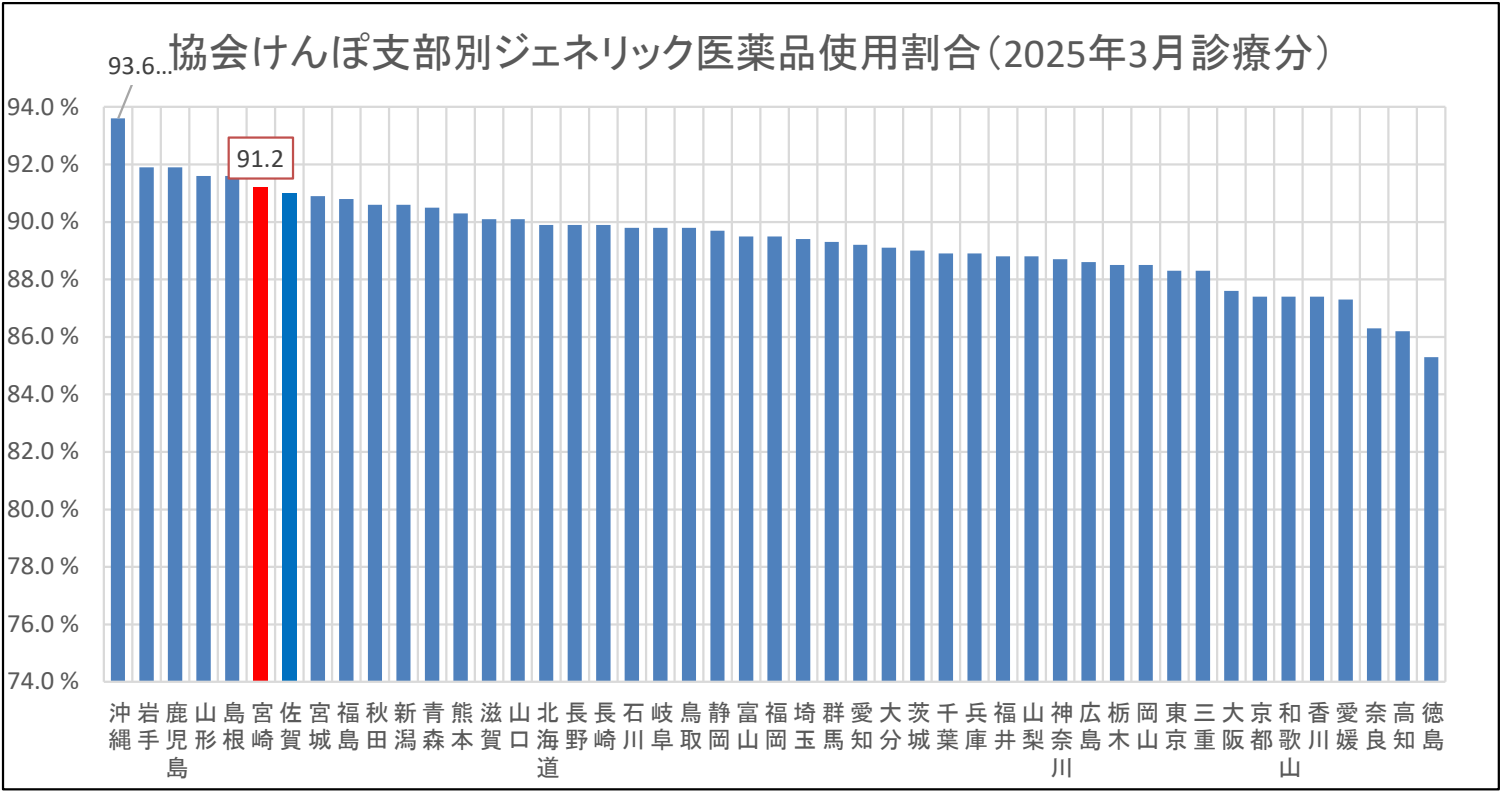


2024年度末時点（2025年3月診療分）の使用割合

医科・DPC・歯科・調剤 ： 91.2%（前年同月比 +4.9%）

協会けんぽでは2018年12月診療分より医科・DPC・歯科・調剤レセプトの総合で使用割合を集計した結果を公表している。宮崎支部の使用割合は政府目標である80%を超える91.2%であり、支部間順位は6位、前年同月の順位は7位であり、順位は1つ上がった。

しかし、順位の近い佐賀支部との使用割合の差はわずかであり、順位は月によって前後する状況である。



月別の使用割合（全国計と宮崎支部）

（3月診療分の前年度比較）

宮崎支部

医科・DPC・歯科・調剤 : 86.3% → 91.2% (+4.9ポイント)

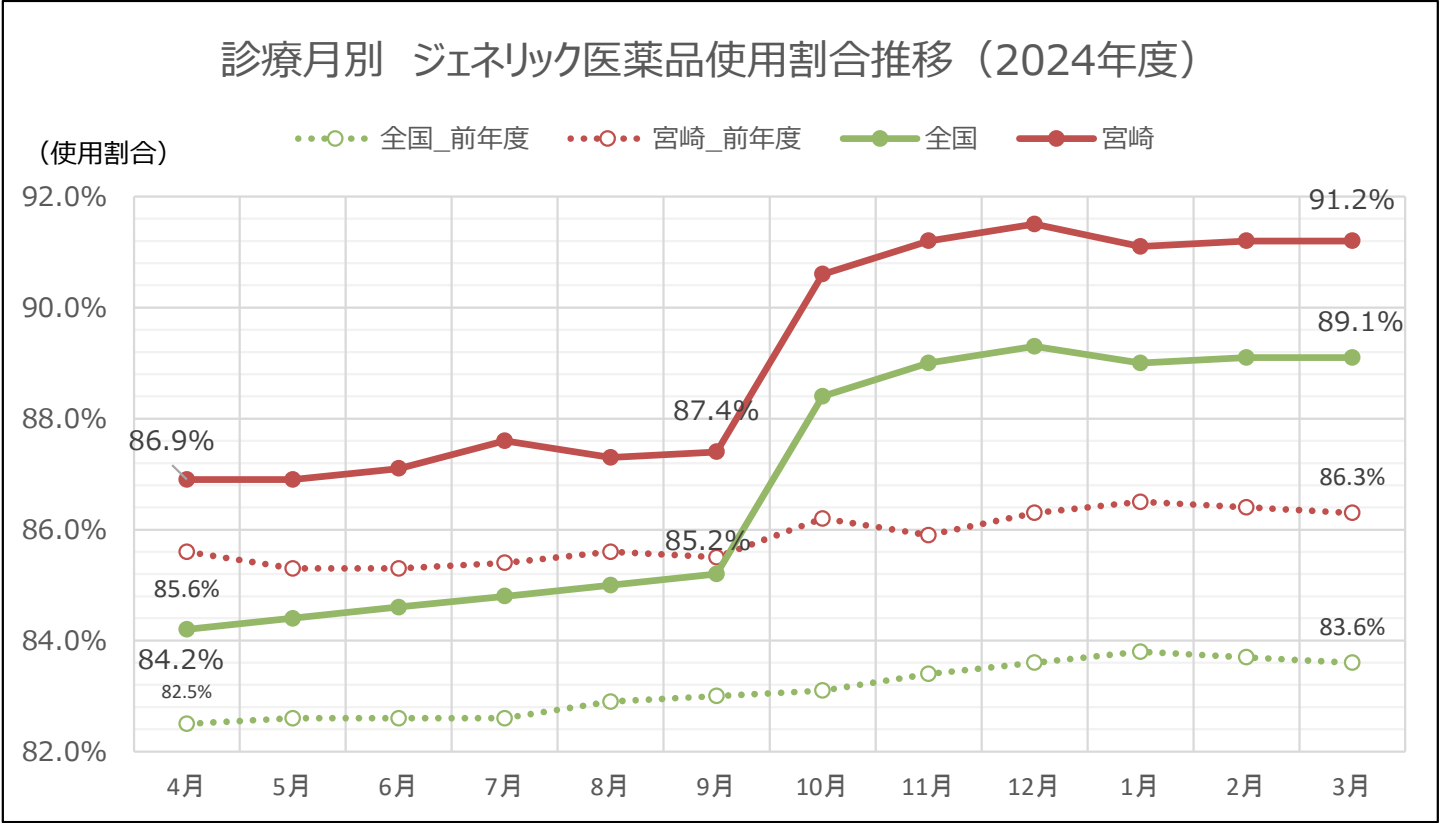
※前年度は年間通じて+1.4ポイント増加。

全国計

医科・DPC・歯科・調剤 : 83.6% → 89.1% (+5.5ポイント)

※前年度は年間通じて+1.9ポイント増加。

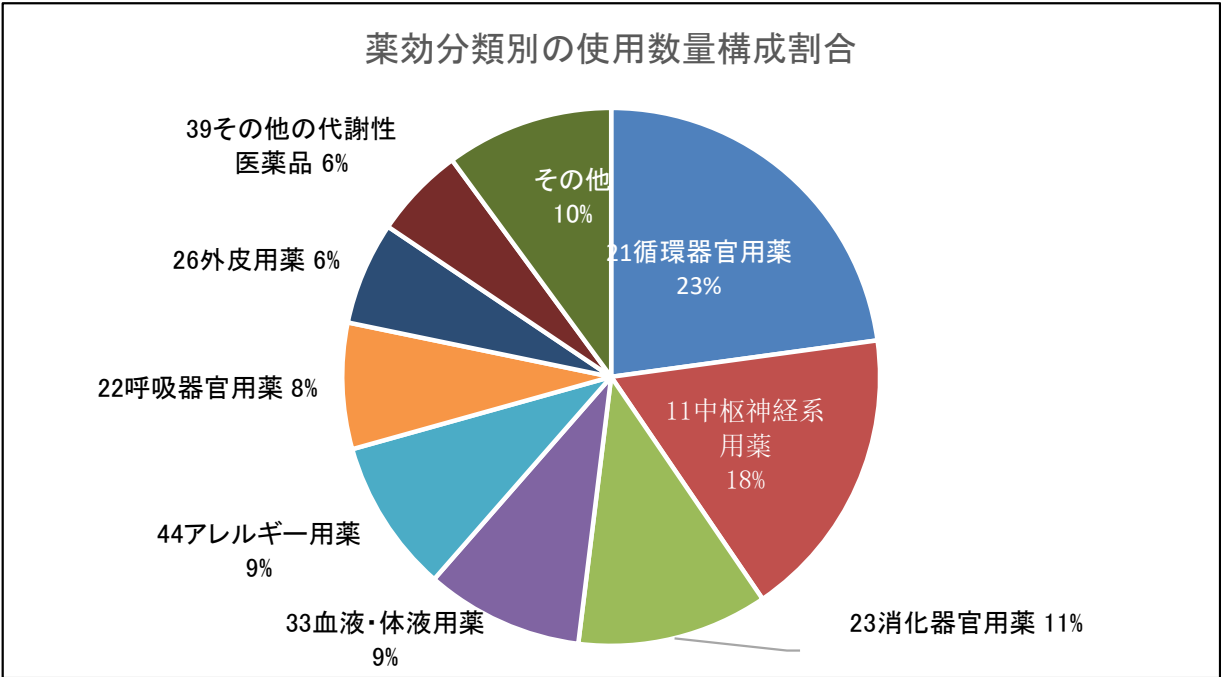
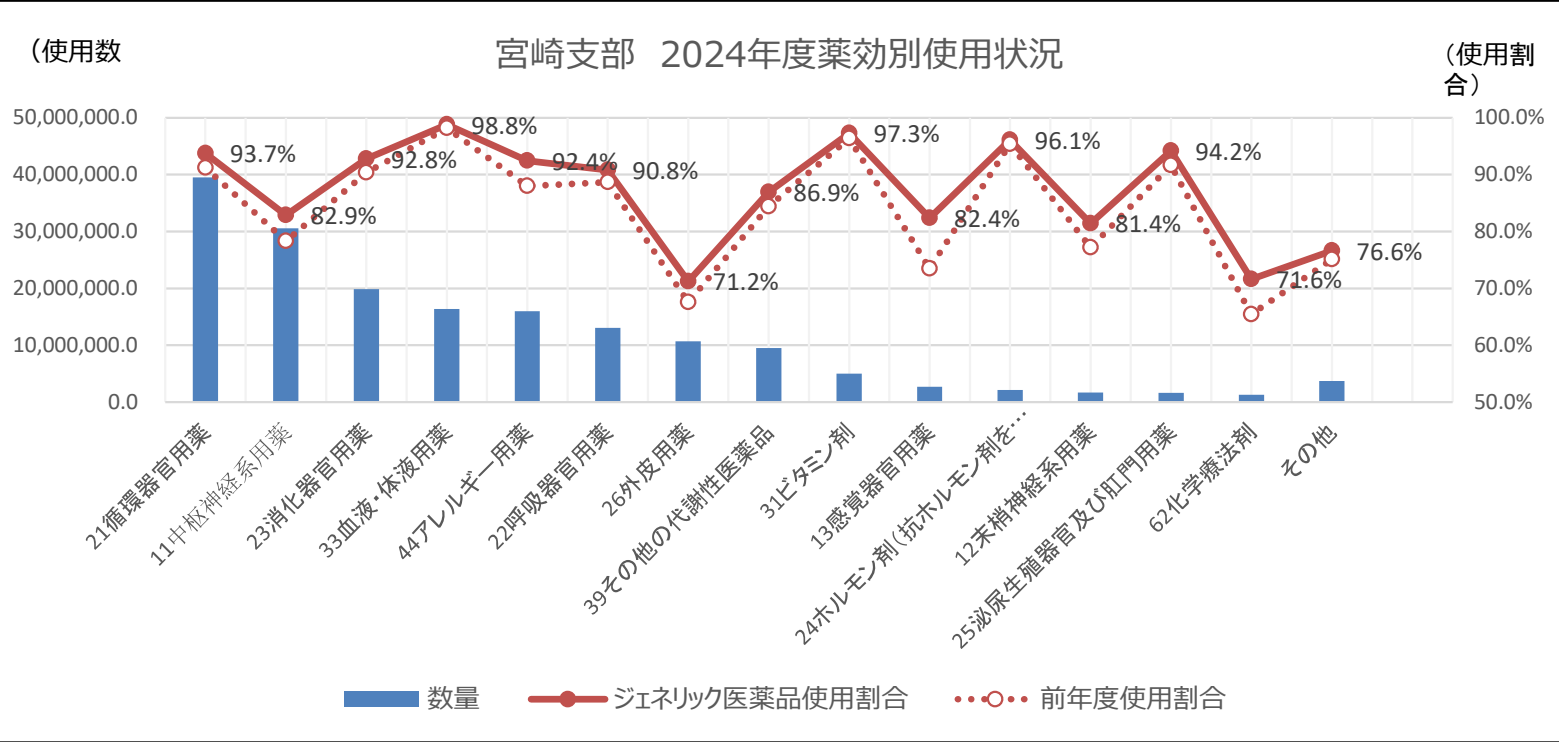
宮崎支部の使用割合は3月診療分の前年同月比で4.9ポイント増と全国平均5.5ポイント増を下回った。
ジェネリック医薬品の使用割合は年々伸びていたが、2024年度は、2024年10月に選定療法が導入されたこと
で大きくポイントが増加した。2024年9月が87.4%、2024年10月が90.6%でありこの間に3.3ポイント増だった。



薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

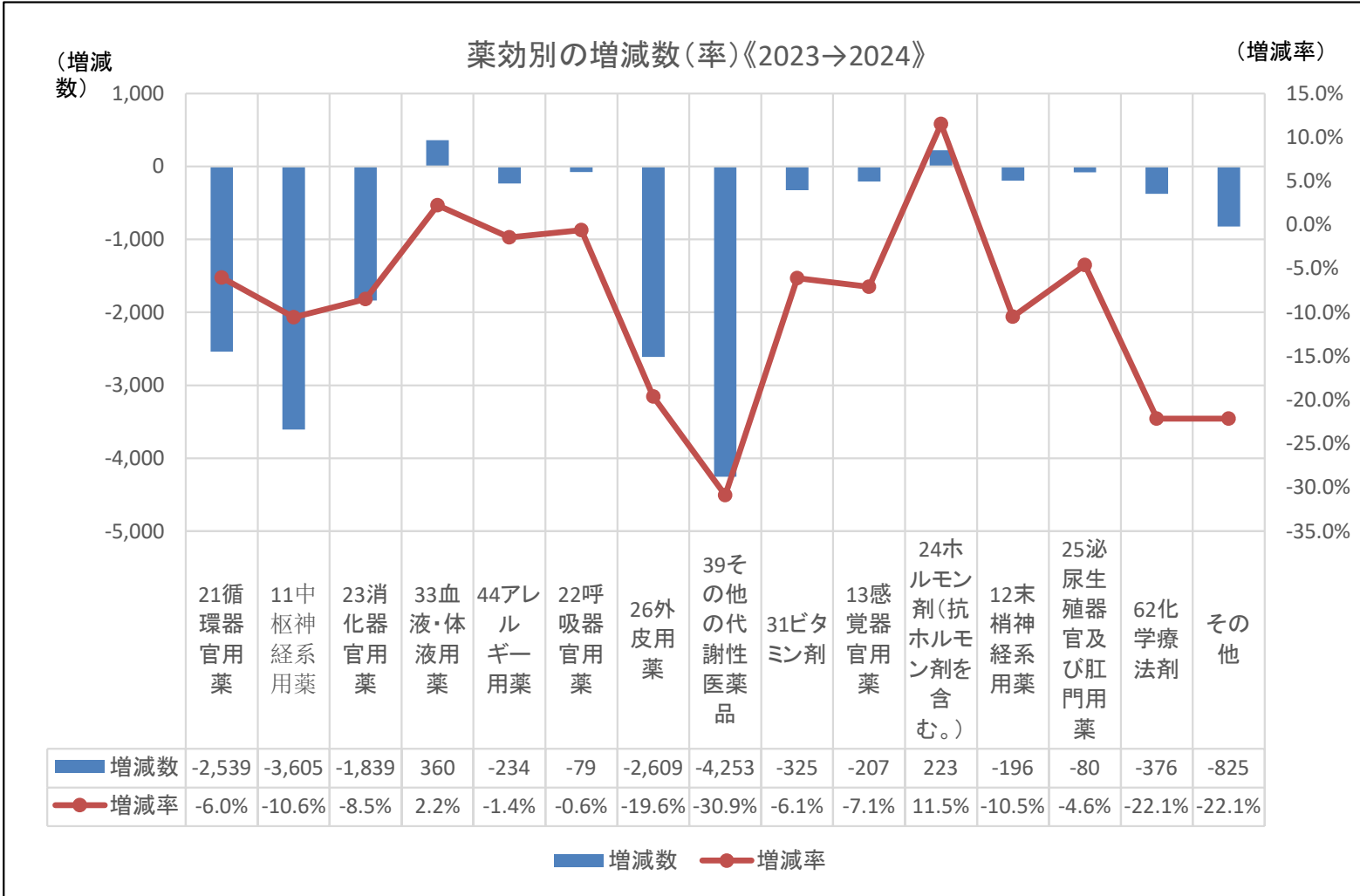
宮崎支部の薬効分類別の使用数量では、「21循環器官用薬」が最も多く、「11中枢神経系用薬」、「23消化器官用薬」、「33血液・体液用薬」、「44アレルギー用薬」、「22呼吸器官用薬」、「26外皮用薬」、「39その他の代謝性医薬品」と続いている。例年、使用数量の多い薬効分類に変化はなく、使用数量の約9割を上記8つの薬効分類が占めることから、以降の分析は、この8つの薬効分類について記載を行う。



薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

薬剤の使用数量は、2022年度は前年度比+1.2%の増加であり、2023年度では+3.2%の増加と増加傾向であったが、2024年度は-9.8%の減少であった。



※グラフの増加数は表示の都合上1,000単位で表示している。

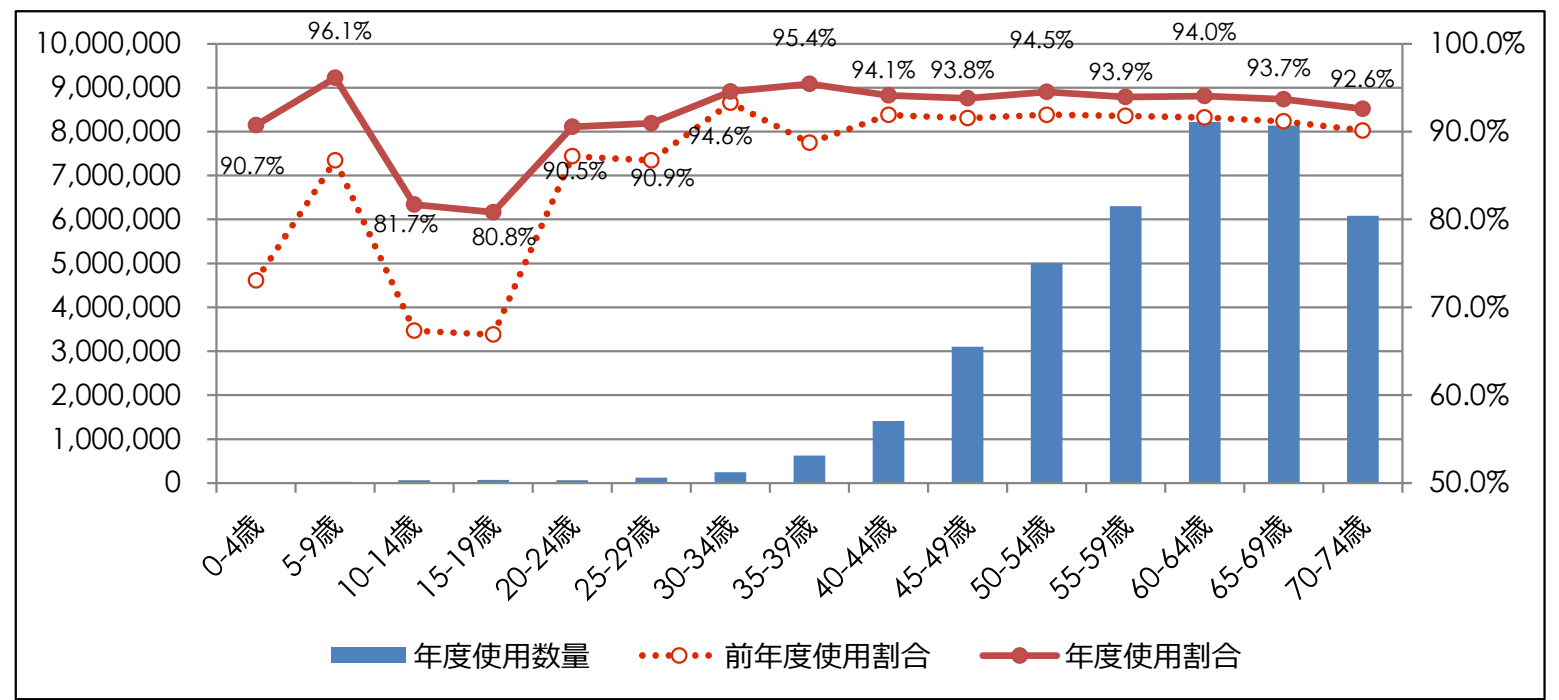
薬効分類別の使用割合

「21循環器官用薬」の使用数量と使用割合

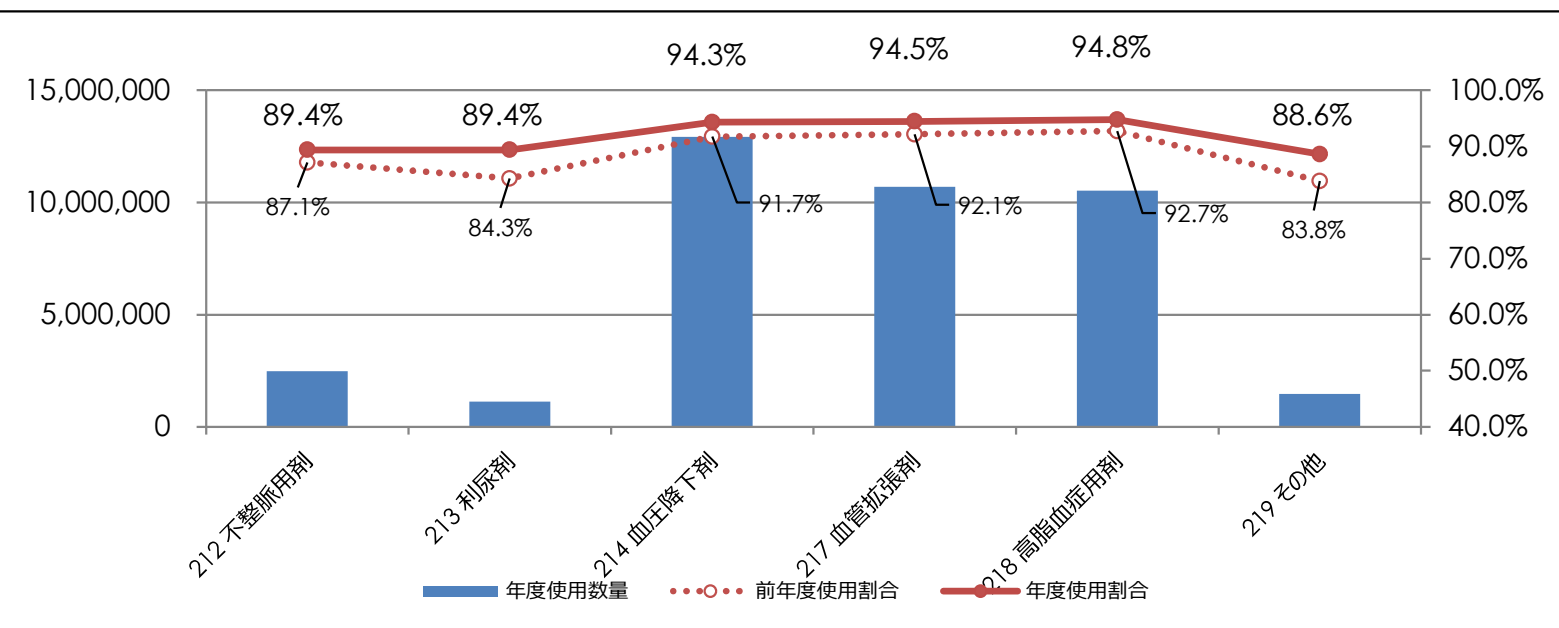
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「21循環器官用薬」の使用数量は、全薬効中最も多い薬効である。40歳以降使用数量が増加し、60～64歳の年齢階級が最も多い（65歳以上で減少するのは協会けんぽの加入者自体が減少するため）。

使用数量全体では-6.0ポイント減少した。



「21循環器官用薬」の薬効小分類別では、「214血圧降下剤」、「217血管拡張剤」、「218高脂血症用剤」の使用数量が多く、いずれも使用割合は前年度より上昇した。3薬効のうち最も使用割合が高いのは「218高脂血症用剤」の94.8%であり、前年度より+2.1ポイント上昇した。



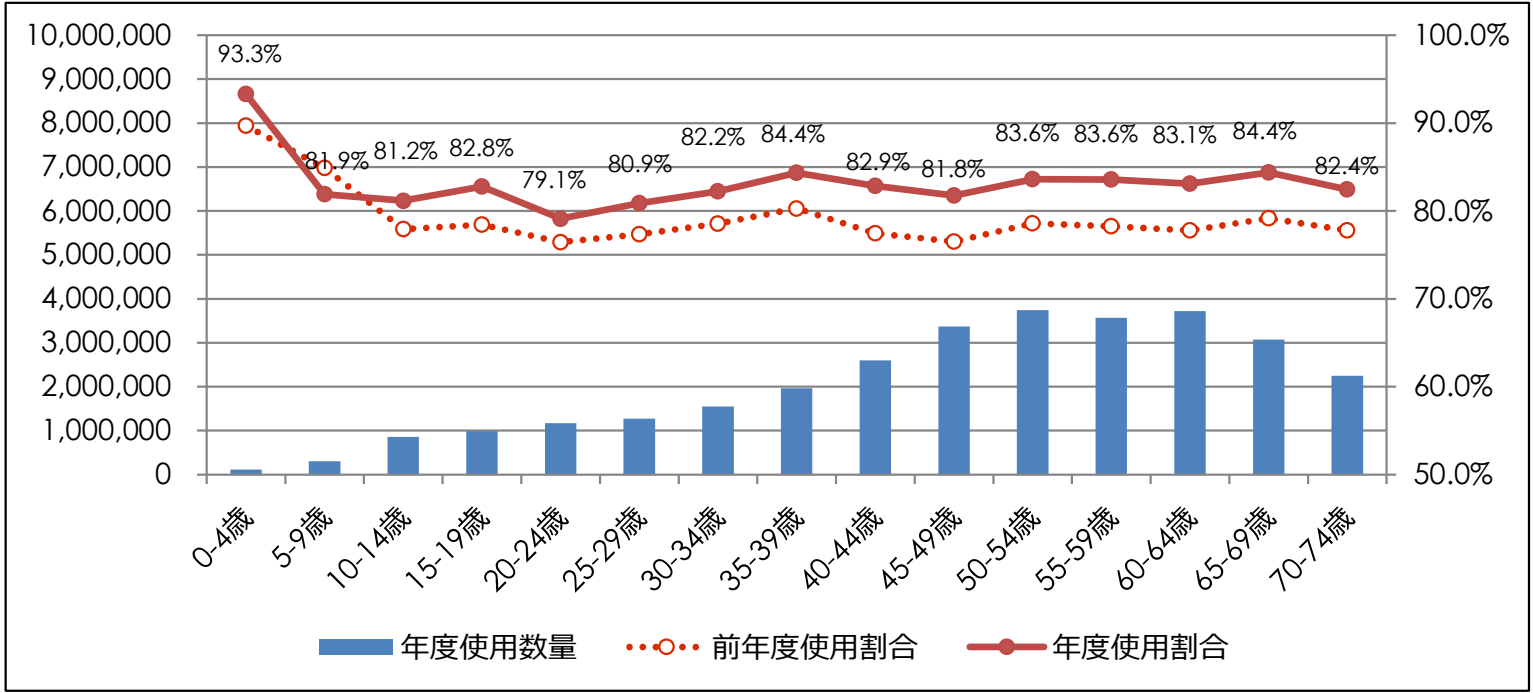
※薬効小分類別のグラフについては、数量の僅少な薬効は除外し、主要な薬効のみを記載している。以降も同様。

薬効分類別の使用割合

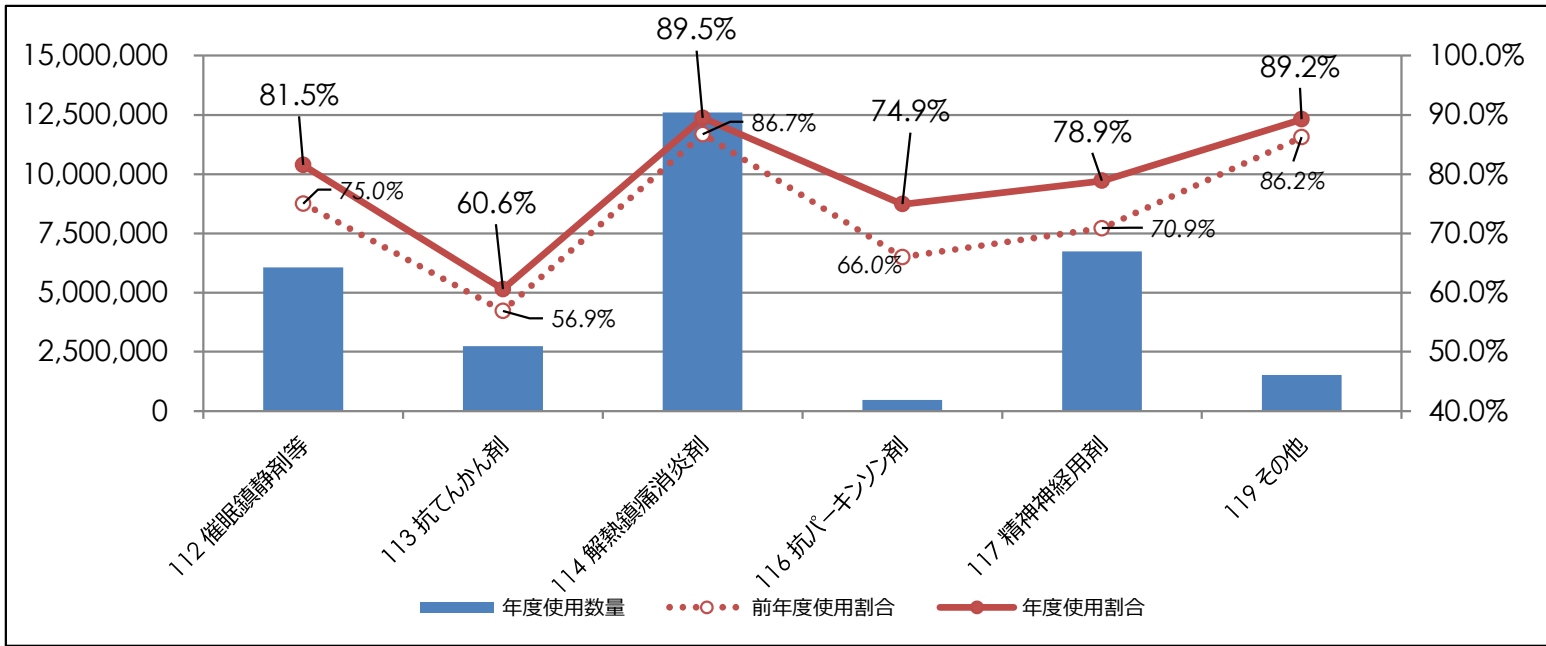
「11中枢神経系用薬」の使用数量と使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「11中枢神経系用薬」の使用数量は年齢階級が上がるとともに徐々に増加するが、45歳以降からはそれほど上昇せず、なだらかなピークとなっている。使用割合は5－9歳の年齢階級が前年度差-3.0%だった。それ以外の年齢階級では前年度から上昇しており、全体の使用割合は+4.6ポイント上昇した。



「11中枢神経系用薬」の薬効分類別では、「114解熱鎮痛消炎剤」の使用数量が最も多く、次に、「117精神神経用剤」、「112催眠鎮静剤、抗不安剤」の順で多い。すべてのカテゴリで前年度より使用割合は上回っており、特に「116抗パーキンソン剤」は8.9ポイントと大きく上昇した。

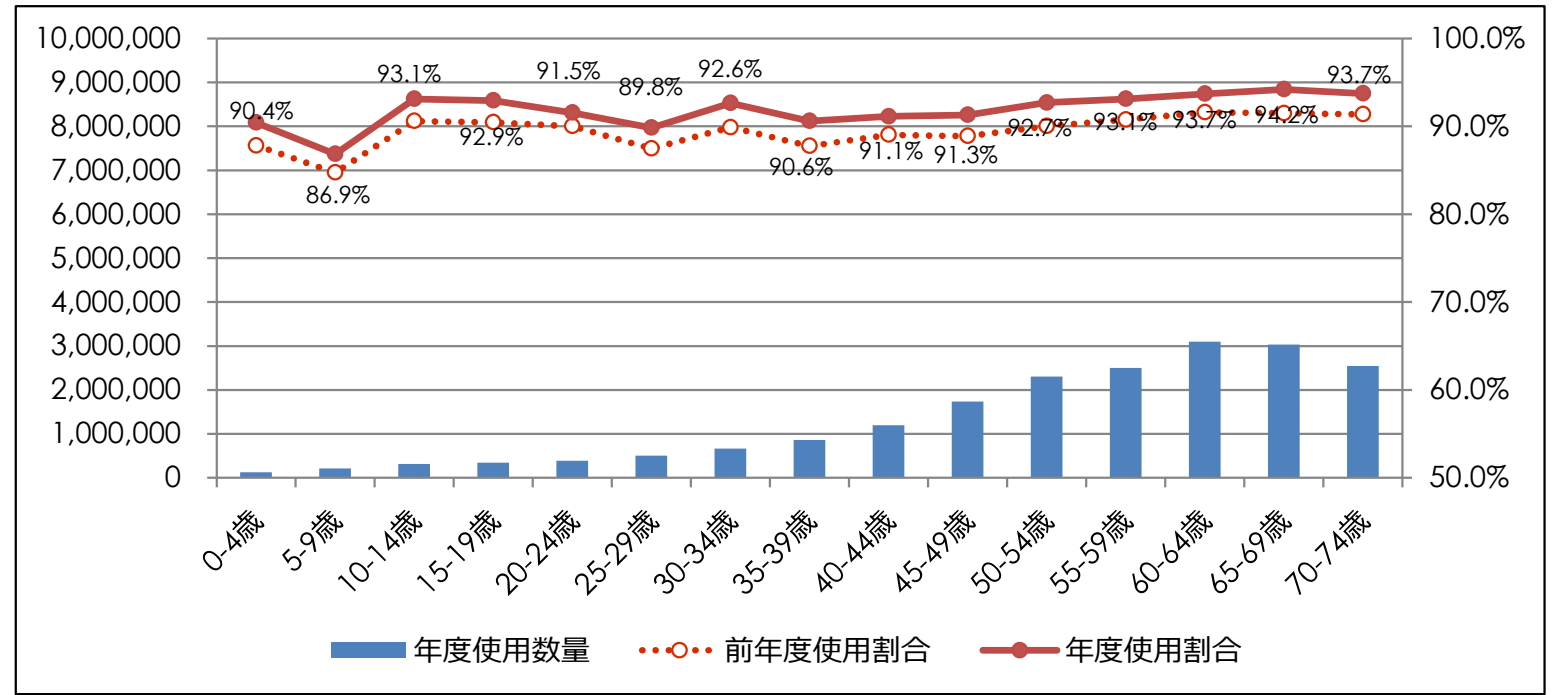


薬効分類別の使用割合

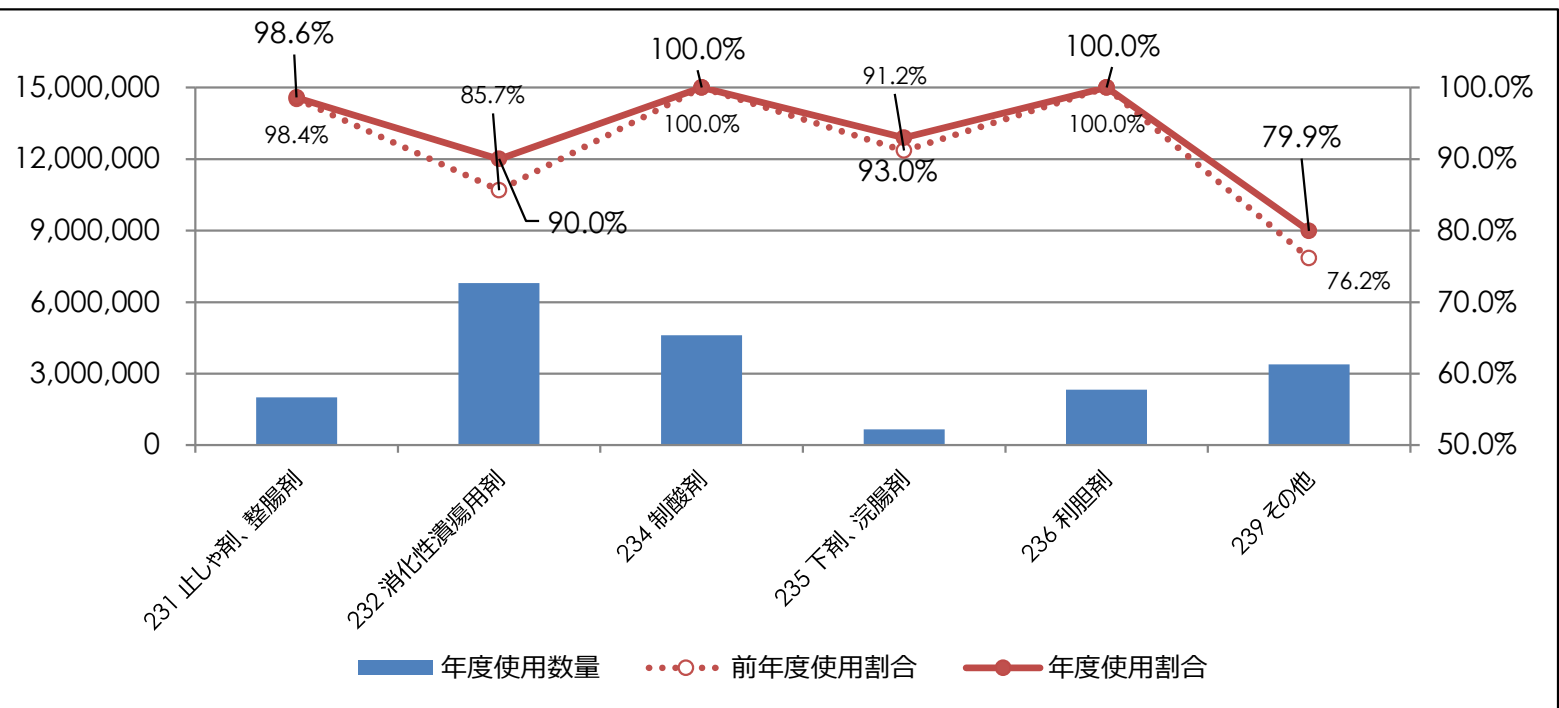
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「23消化器官用薬」の使用数量と使用割合

「23消化器官用薬」の使用数量は、年齢階級が上がるとともに徐々に増加し、60～64歳の年齢階級が最も多い。使用割合は年齢階級間の差は小さく、すべての年齢階級で80%以上となっていた。全体の使用割合は92.8%で、前年度から+2.4ポイント上昇した。



「23消化器官用薬」の薬効分類別では、使用数量の最も多い「232消化性潰瘍用剤」の使用割合は+4.3ポイント上昇した。

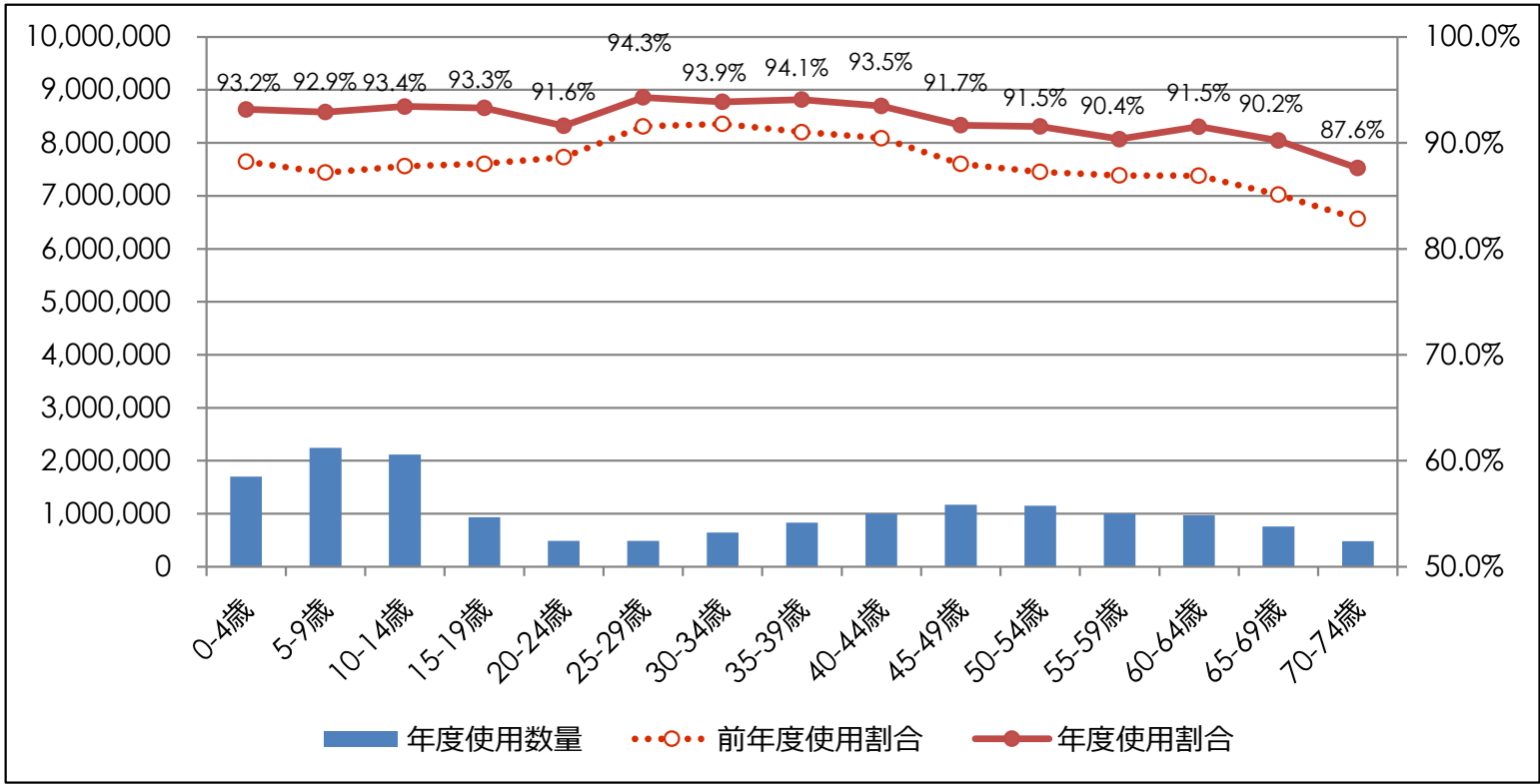


薬効分類別の使用割合

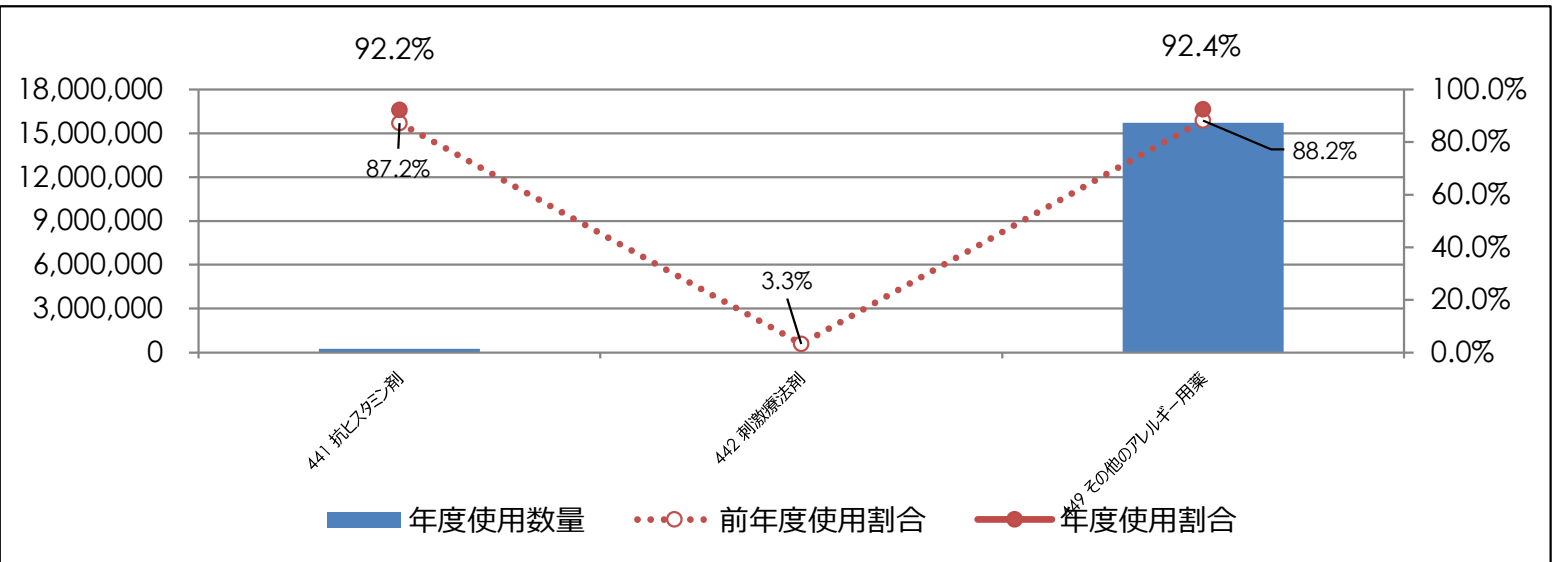
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「44アレルギー用薬」の使用数量と使用割合

「44アレルギー用薬」の使用数量は、0～14歳の年齢階級で多く、次いで40歳以上が多い二峰性に近い特徴を持つ。全体的にどの年齢階層でも使用割合が上昇しており、特に使用数量の多い低年齢の階層で上昇が見られた。全体の使用割合は+4.4ポイント上昇した。低年齢階層の上昇が進み、高齢層の使用割合の方が相対的に低くなった。



「44アレルギー用薬」の薬効分類別では、「449その他のアレルギー用薬」がほとんど（約98%）を占めており、前年度から+4.2ポイント上昇した。「442刺激療法剤」は前年度使用割合3.3%から今年度は0%となった。

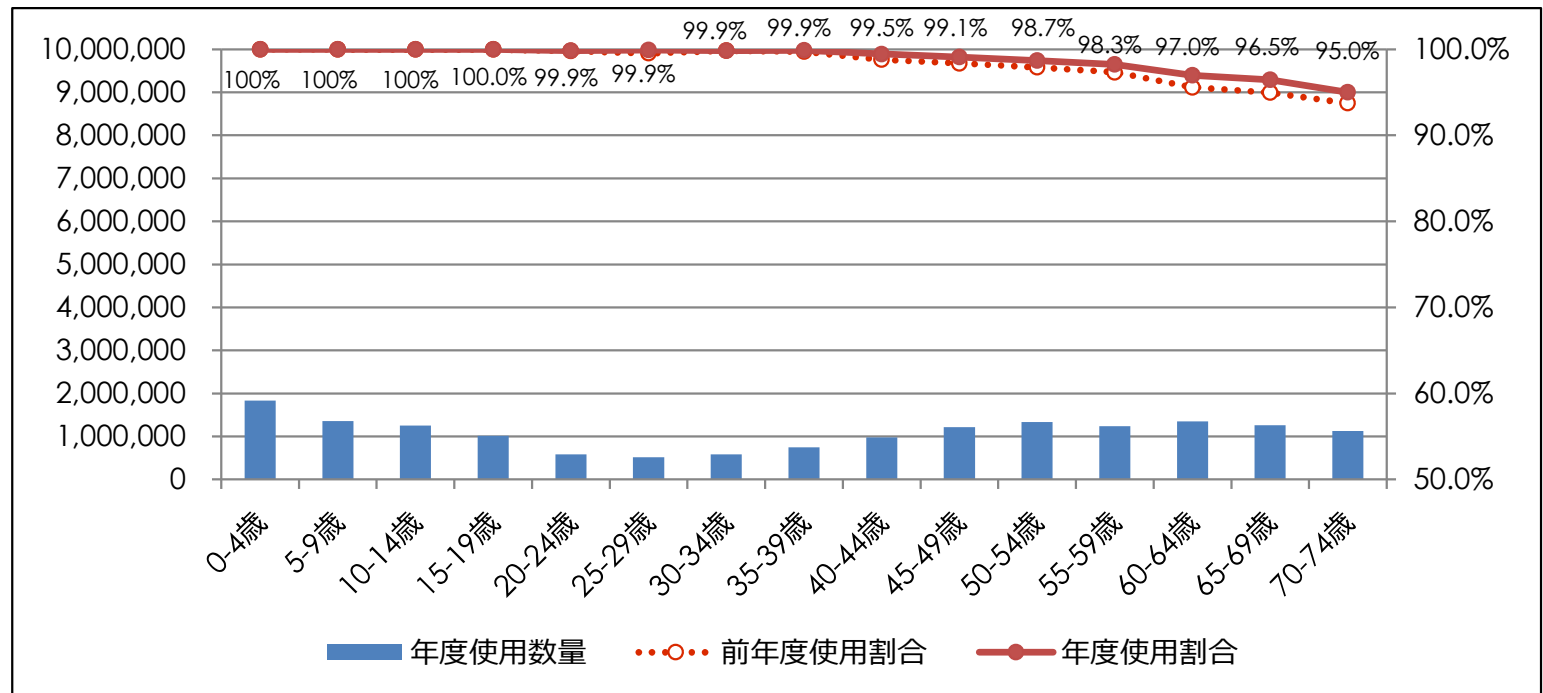


薬効分類別の使用割合

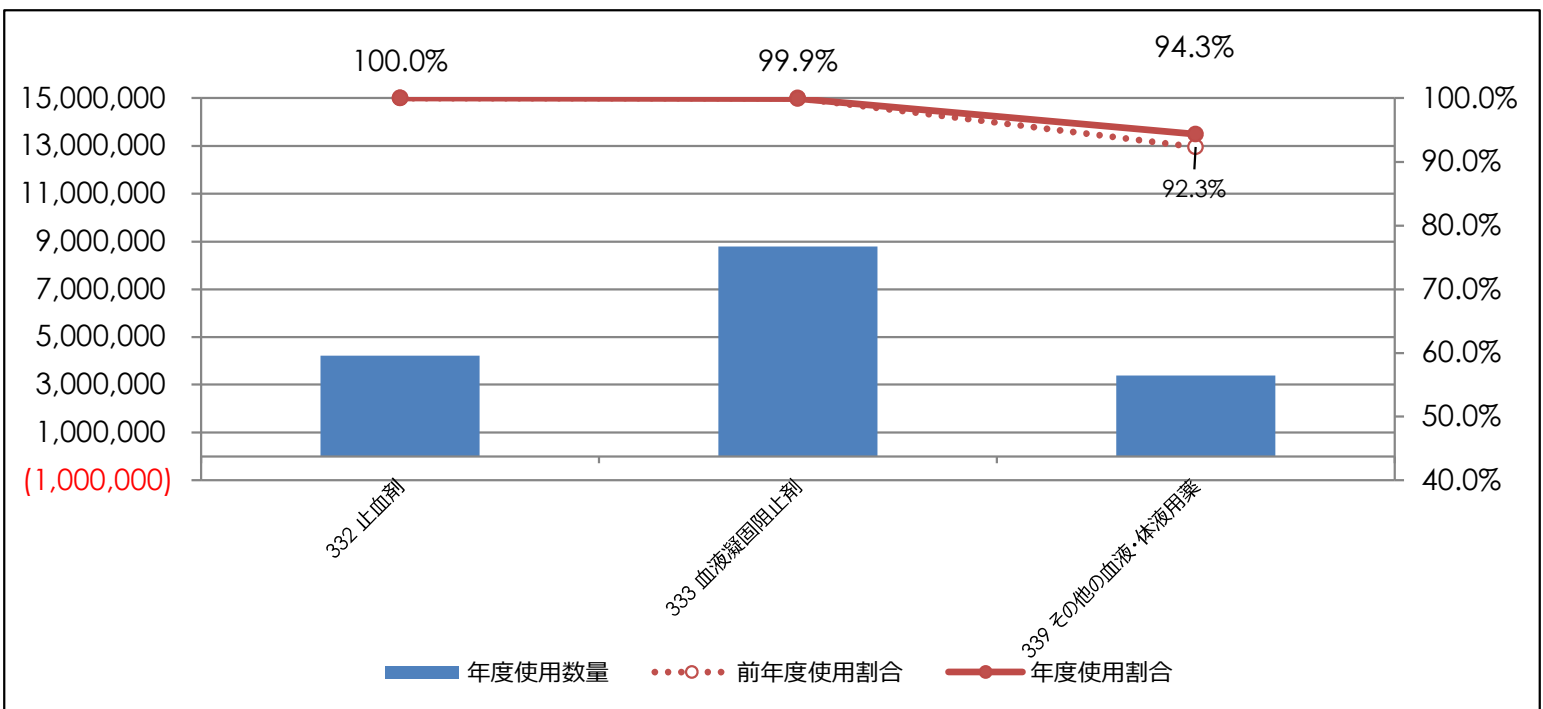
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「33血液・体液用薬」の使用数量と使用割合

「33血液・体液用薬」の使用数量は、二峰性の特徴を持つ。若年層に関しては、ヒルドイドなどの主要医薬品が全て後発品として区分されるため、基本的に使用割合がほぼ100%となるが、高齢層で使用される高脂血症や末梢動脈疾患用の医薬品も後発品使用が増加しており、全体の使用割合は98.8%で、前年度から+0.6ポイント上昇した。



「33血液・体液用薬」カテゴリ全体の使用割合は、主要な「332止血剤」の使用割合が100%、「333血液凝固阻止剤」の使用割合が99.9%となるため、「339その他の血液・体液用薬」の使用割合が影響する。「339その他の血液・体液用薬」は前年度から+2.0ポイント上昇した。



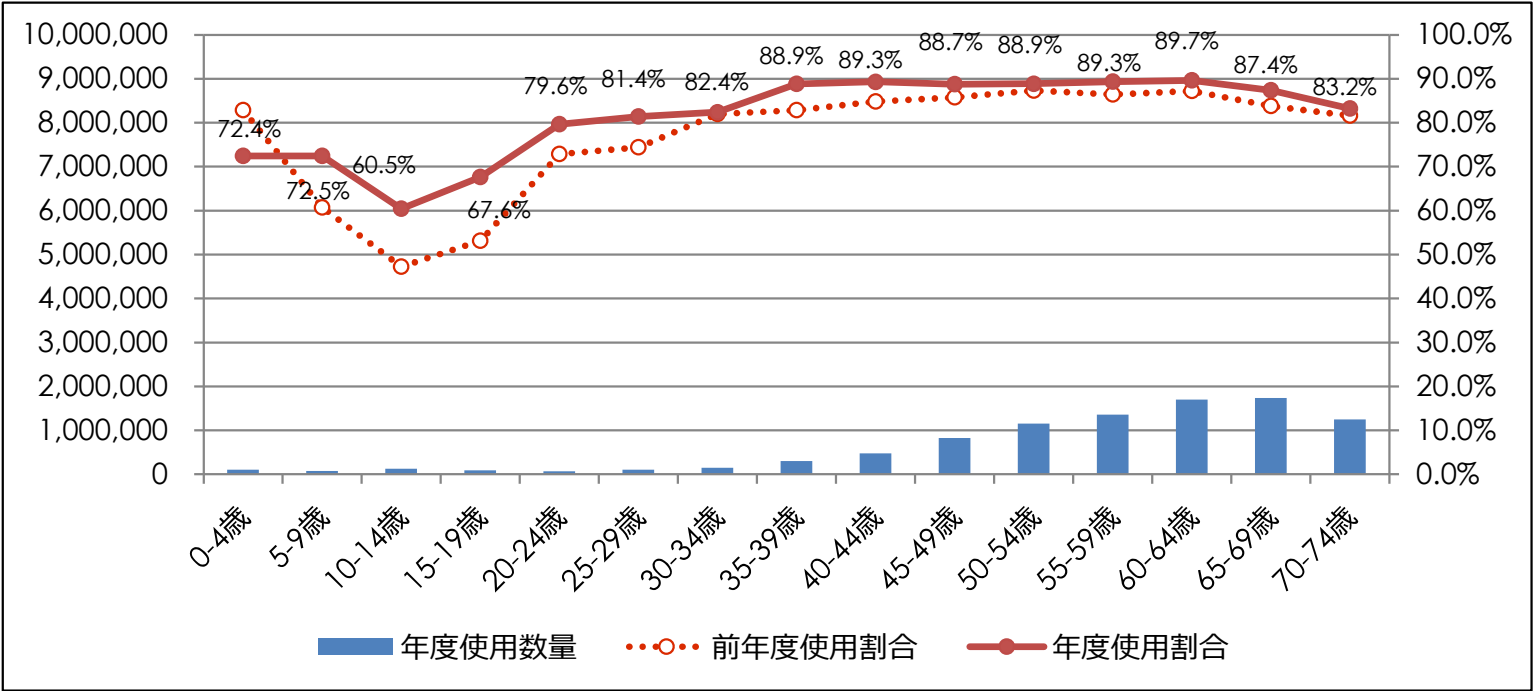
薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

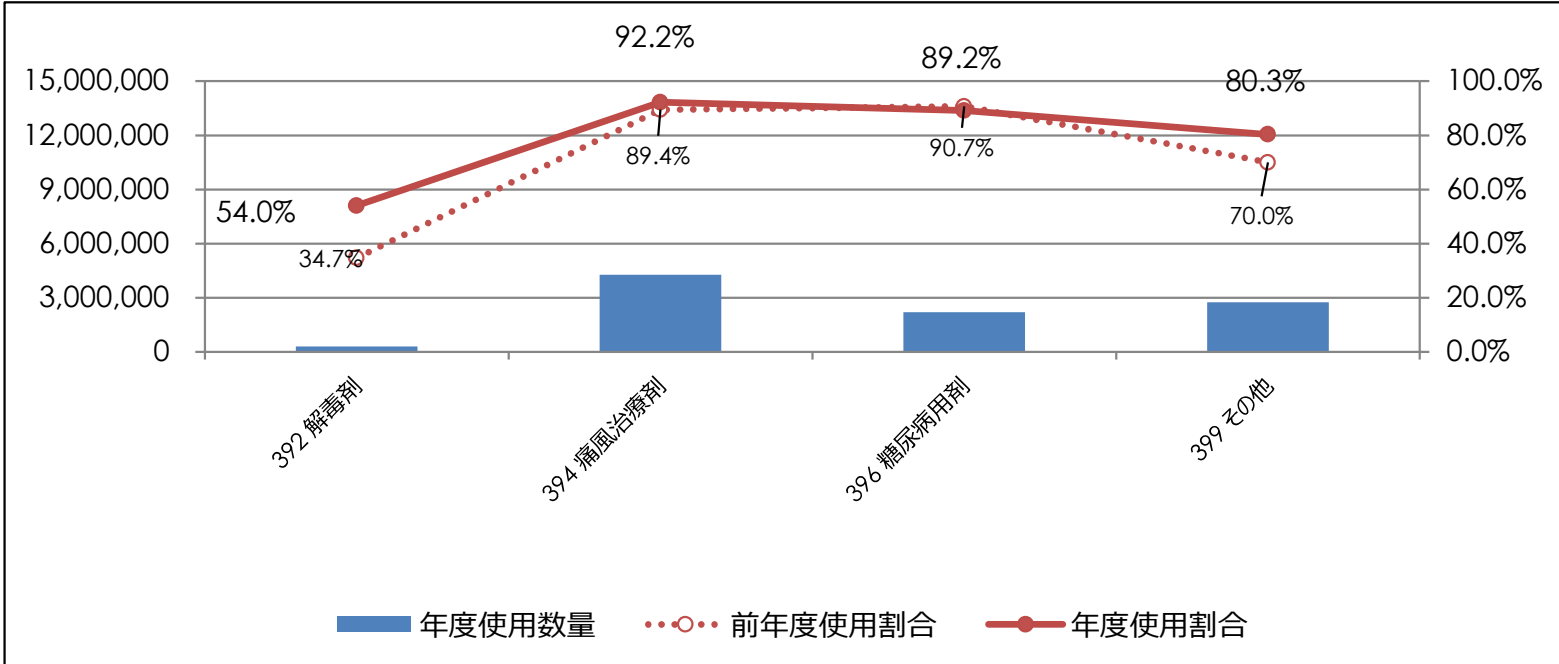
「39その他の代謝性医薬品」の使用数量と使用割合

「39その他の代謝性医薬品」は年齢が高くなるにつれ使用数量が増加していく薬効である。高齢層で使用割合は上昇し、全体では+2.5ポイント上昇したが、0～19歳の年齢階級では使用割合が年度ごとに大きく変動している状況が続いている。

10～14歳の年齢階層で2020年度に10.8%だった使用割合が60.5%まで上昇し、5～9歳の年齢階層の使用割合は72.5%と上昇した。0～4歳の年齢階層は前年度差-10.4%と減少した。



「39その他の代謝性医薬品」の薬効分類別では、使用数量の少ないが「392解毒剤」前年度から+19.3ポイント上昇した。

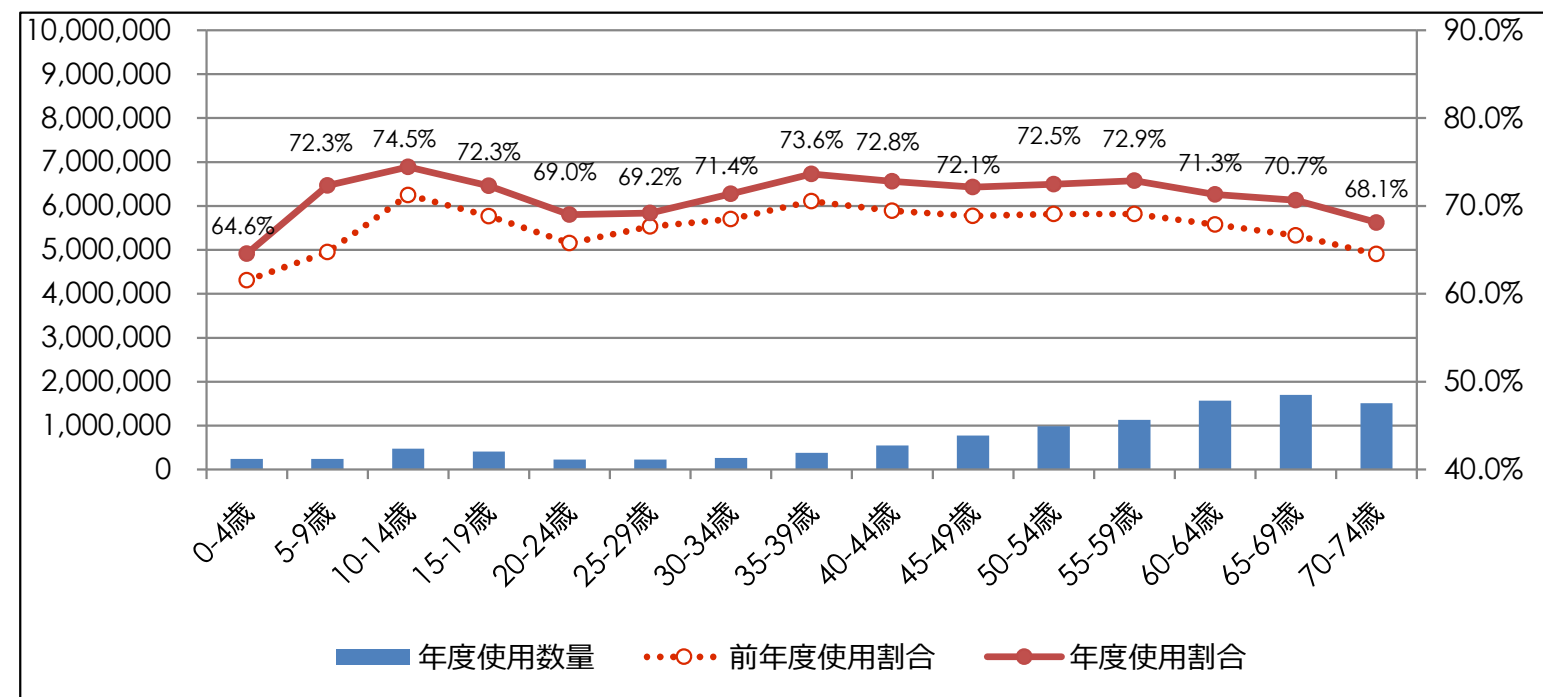


薬効分類別の使用割合

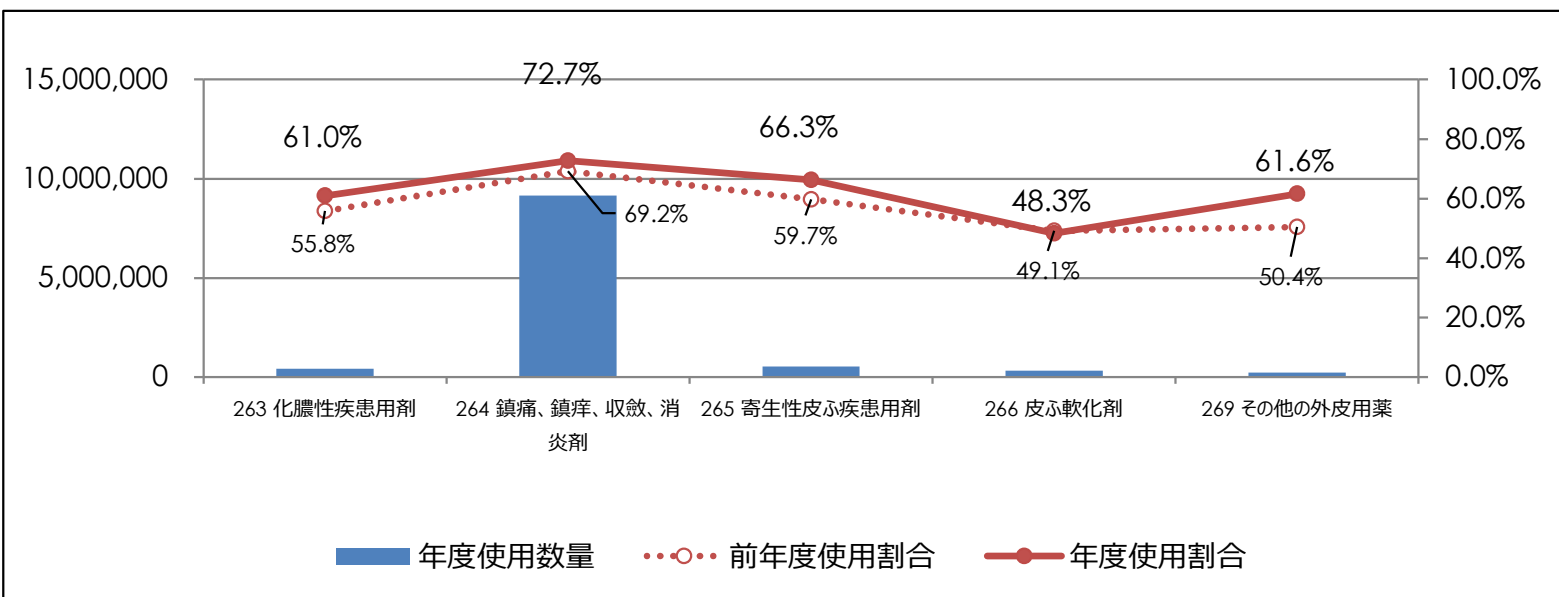
「26外皮用薬」の使用数量と使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「26外皮用薬」の使用数量は、全年齢で一定の使用数量が見られ、60歳を超えると使用数量がさらに増加する。主要薬効の中で最も使用割合の低い薬効だが、2024年度は全体で+3.6ポイント上昇し、2023年度と同様に上昇が続いている（2023年度は前年度比+3.7ポイント上昇）。特に低年齢の階層で使用割合は上昇し、5歳～9歳の年齢階級では、前年度より+7.6ポイント上昇した。



「26外皮用薬」の薬効分類別では、「264鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤」の使用数量がほとんど（約87%）を占めている。使用割合は同一薬効の中では72.7%と最も高く、前年度から+3.5ポイント上昇した。

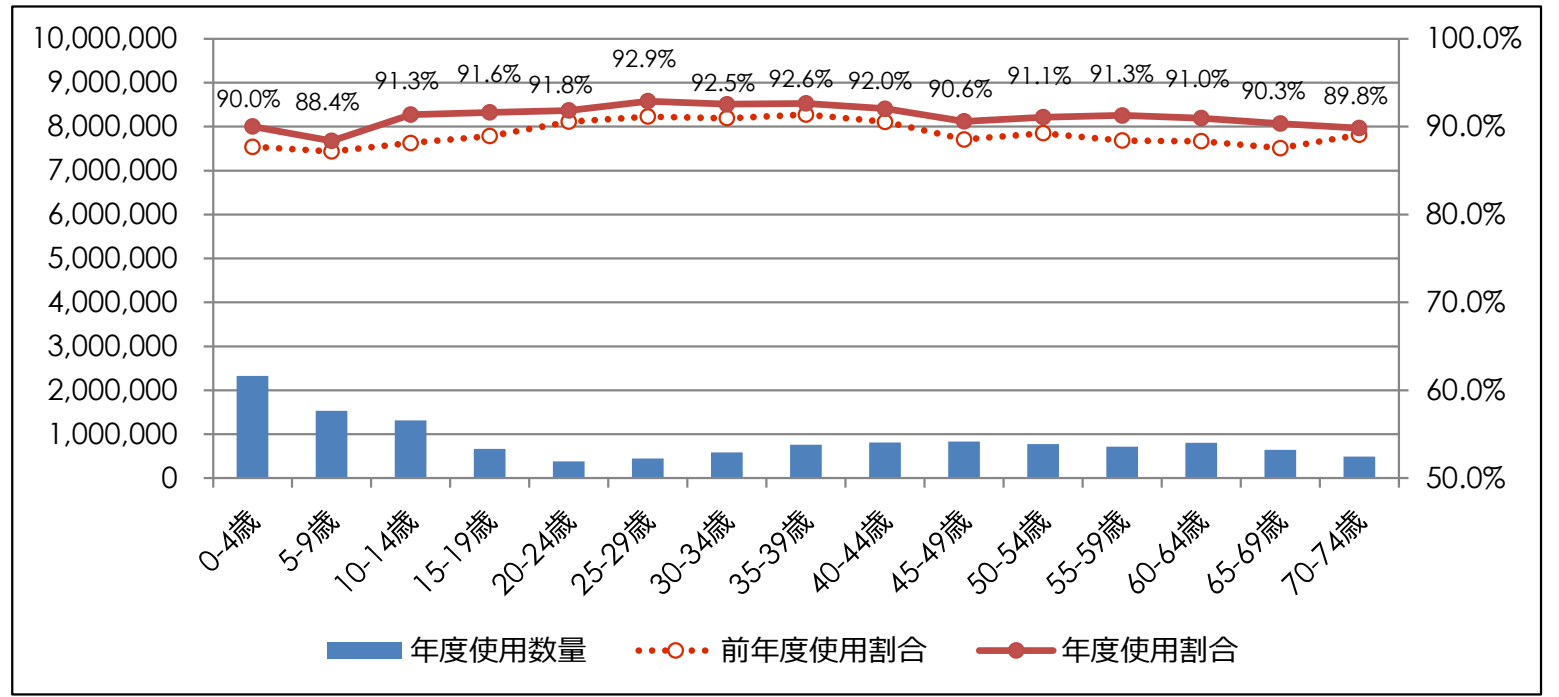


薬効分類別の使用割合

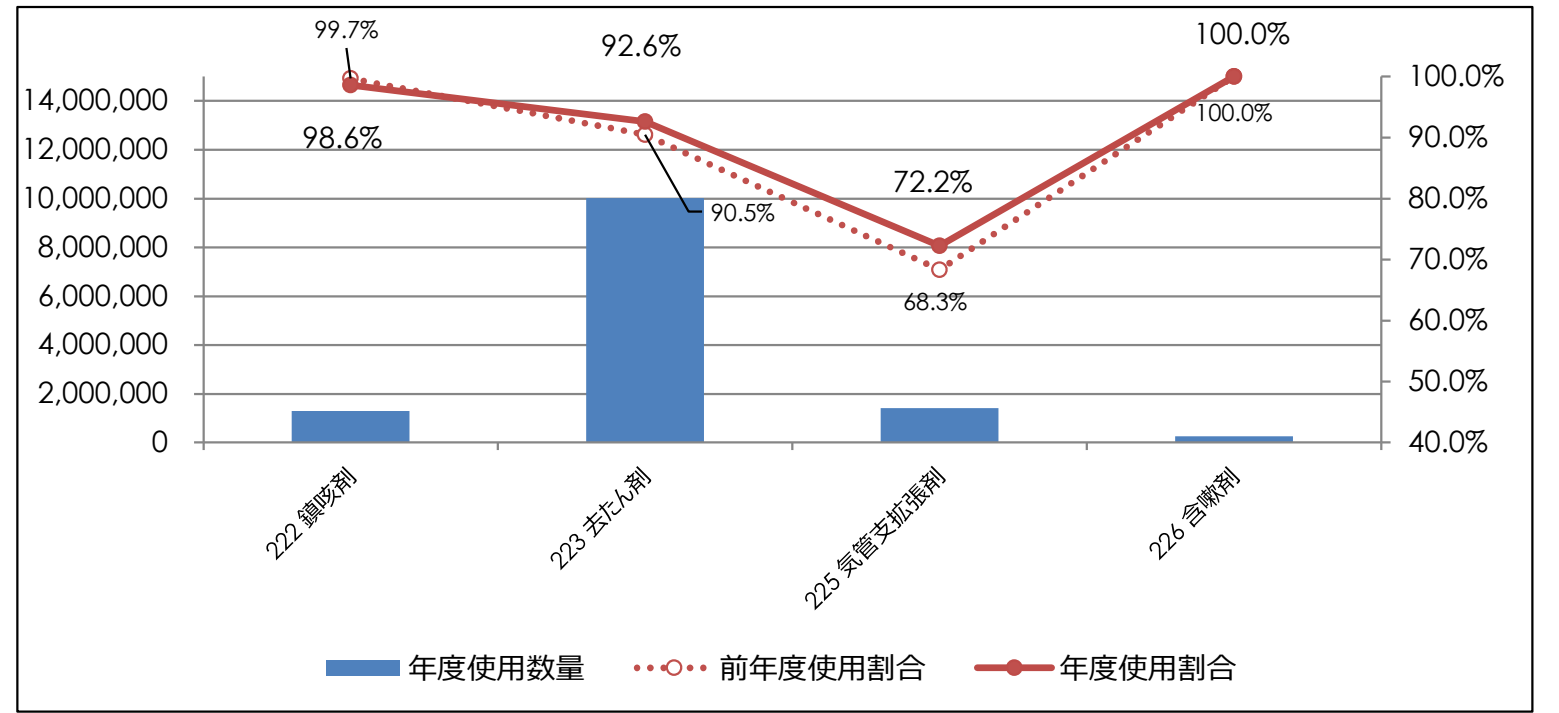
「22呼吸器官用薬」の使用数量と使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

「22呼吸器官用薬」の使用数量は、低年齢層の使用数量が多く、それ以外の年齢階層では一定の使用数量となる。使用割合は全年齢階級において増加し、全体の使用割合は2.1ポイント増加した。



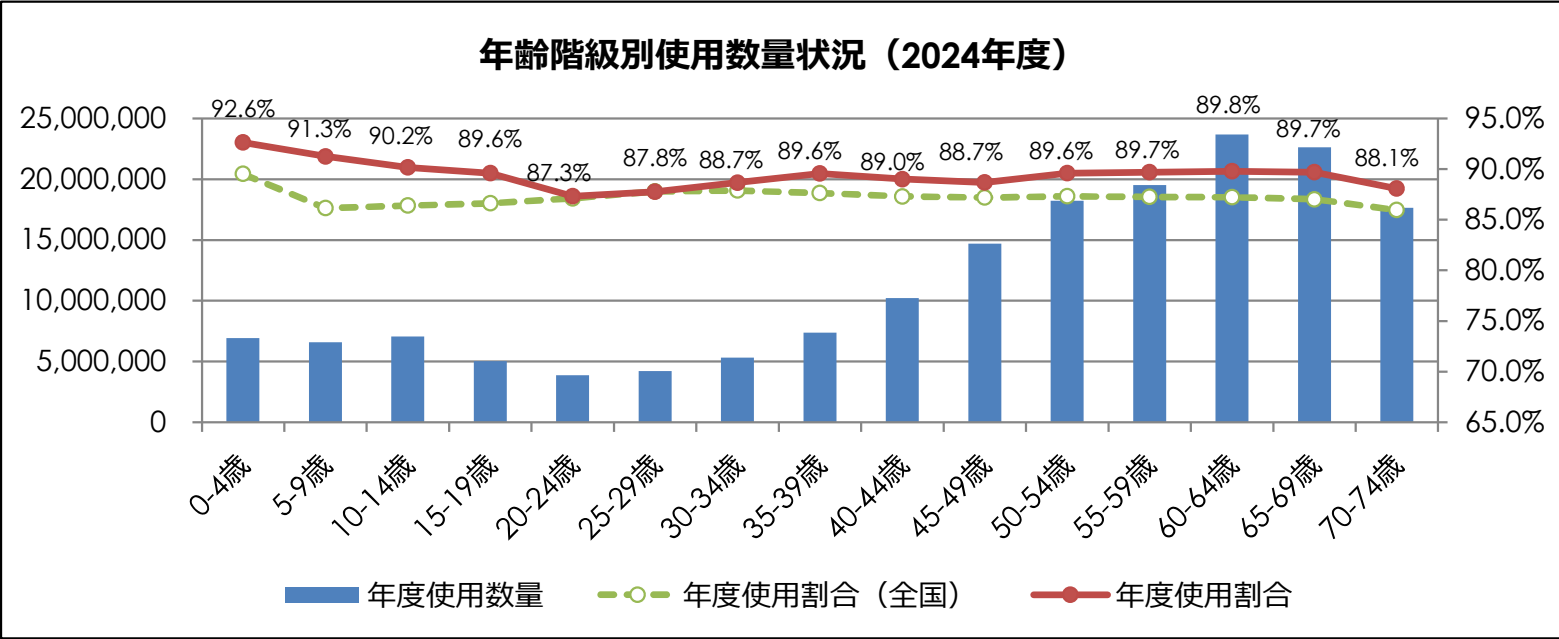
「22呼吸器官用薬」の薬効分類別では、「223去たん剤」の使用数量が多く（約77%）を占めており、前年度から2.1ポイントと上昇したが、「222鎮咳剤」の使用割合は－1.1ポイント減少した。



年齢階級別・薬効分類別の使用割合

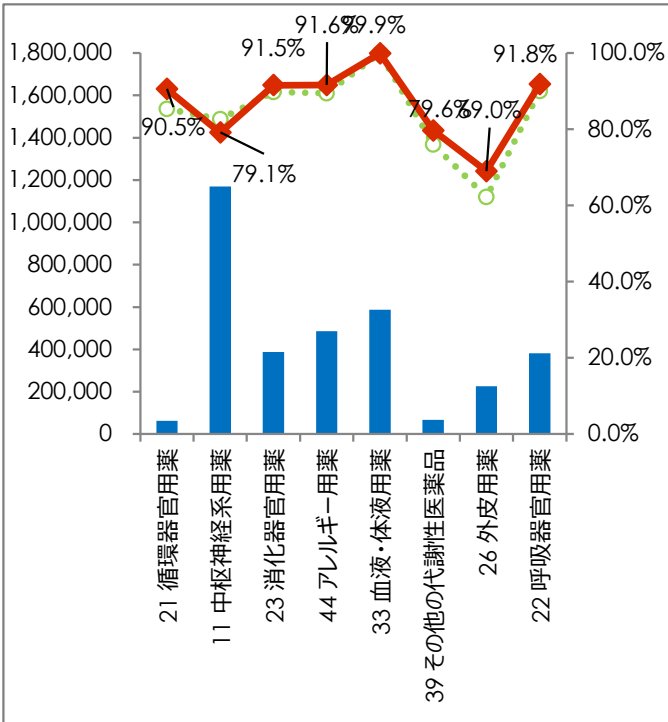
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

宮崎支部の年齢階級別の使用数量と使用割合を確認すると、使用数量の分布状況に変わりはなく、使用割合は、25－29歳の年齢構成で87.8%は全国平均と同じ数値となった。25－29歳以外の年齢階級では全国平均を上回っている。

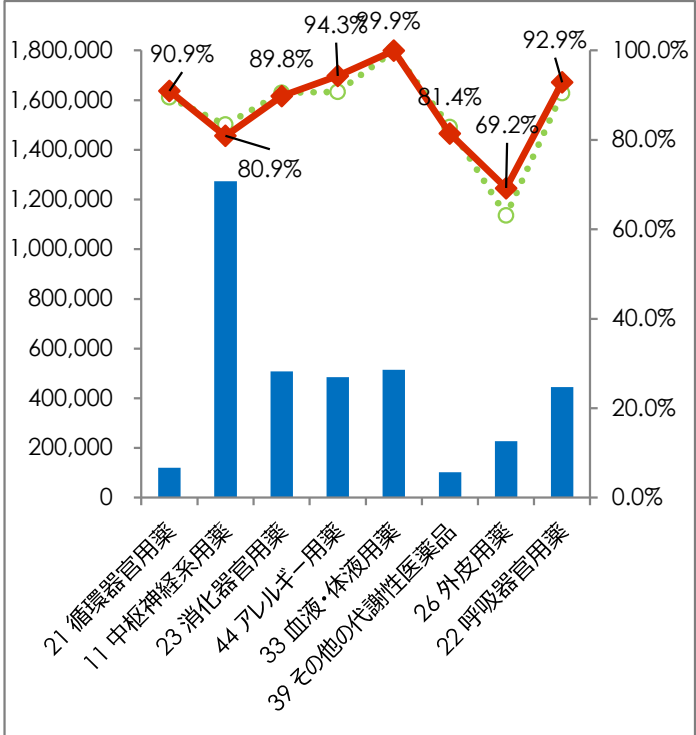


多くの年齢階級では全国平均を一定程度上回るが、20～24歳、25～29歳については使用割合は全国平均に近い割合となっており、薬効別に確認すると主要な薬効では「11中枢神経系用薬」が全国平均を下回っている事がわかる。

20～24歳の使用数量と使用割合



25～29歳の使用数量と使用割合

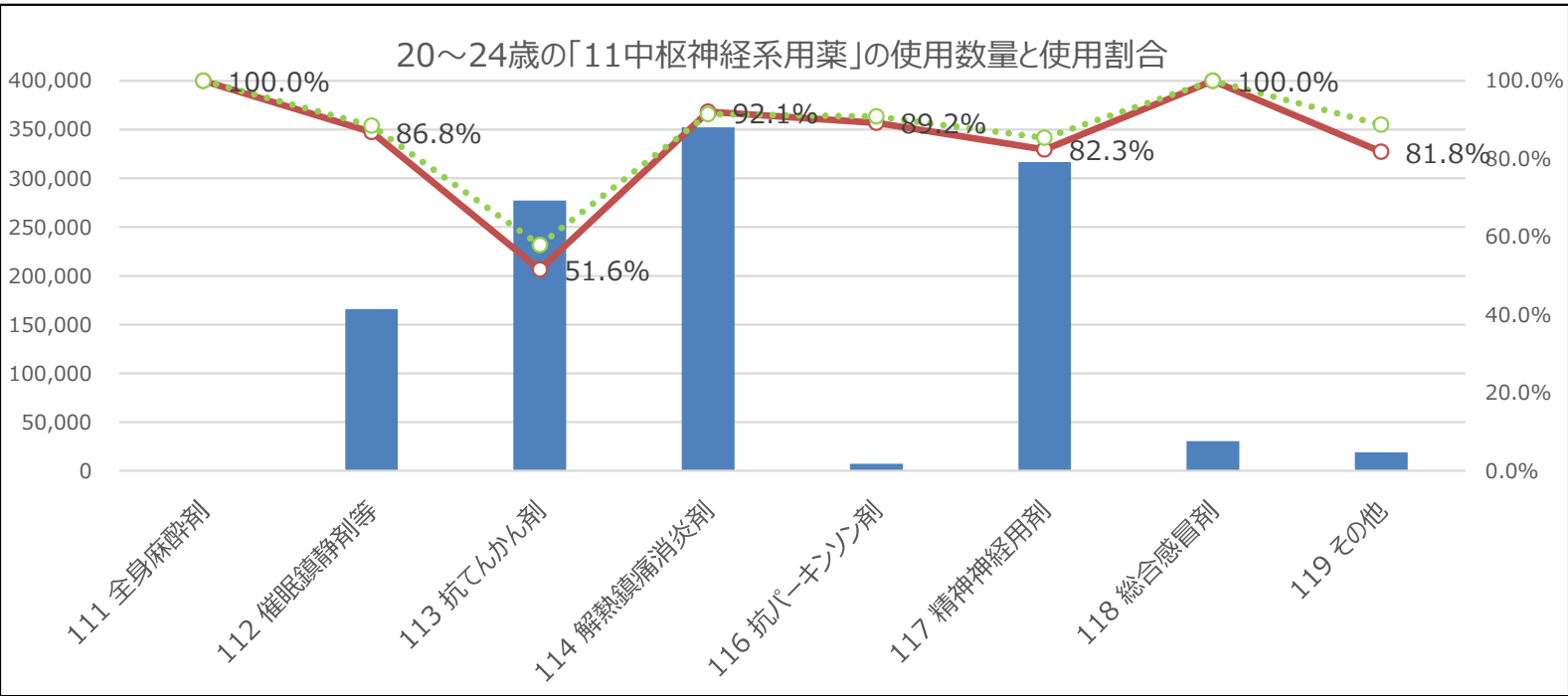


■ 使用数量 ◆ 使用割合 ●●●● 使用割合（全国）

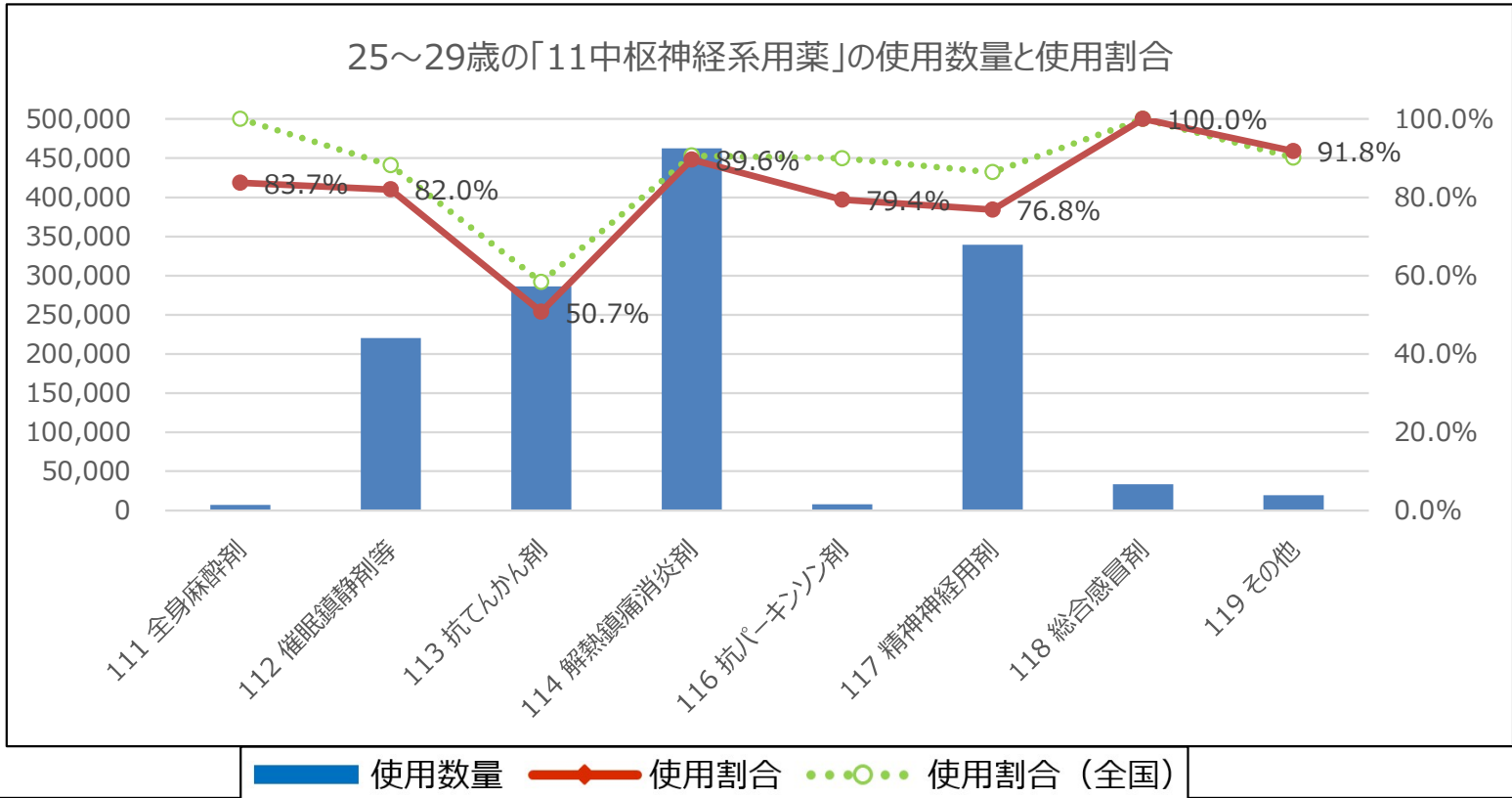
年齢階級別・薬効分類別の使用割合

使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

20～24歳の年齢階層で「11中枢神経系用薬」の状況を確認すると、主な薬効のうち使用数量が最も多い「114解熱鎮痛消炎剤」では全国平均を0.8ポイント上回っていた。次に使用数量の多い「117精神神経用剤」は-1.7ポイントと全国平均を下回っていたものの、前年度の-2.8ポイント下回っていた状態からは乖離が縮小した。

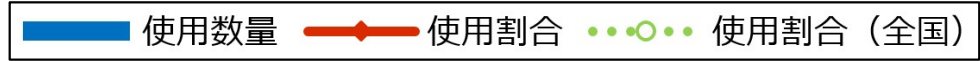


25～29歳の年齢階層では、「113抗てんかん剤」が-7.6ポイントと全国平均より低く、「117精神神経用剤」も-9.5ポイント全国平均を下回っていた。

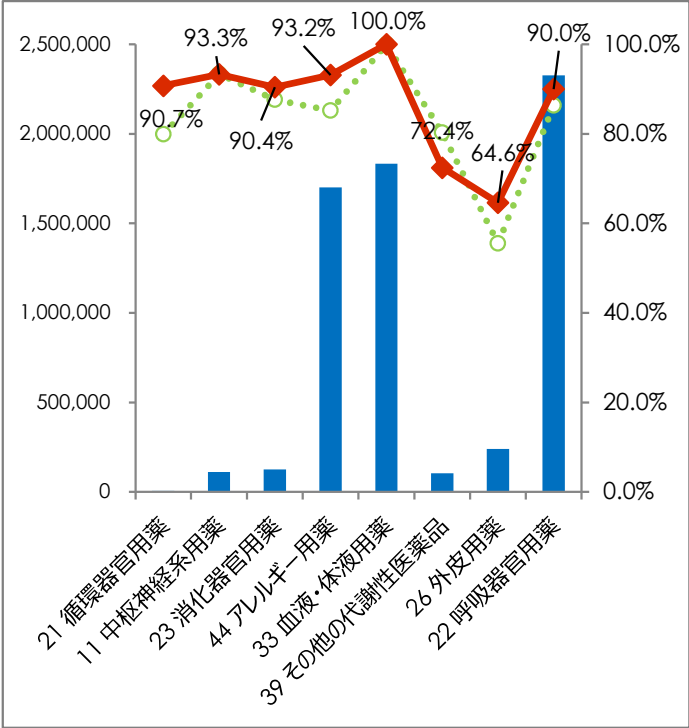


年齢階級別・薬効分類別の使用割合

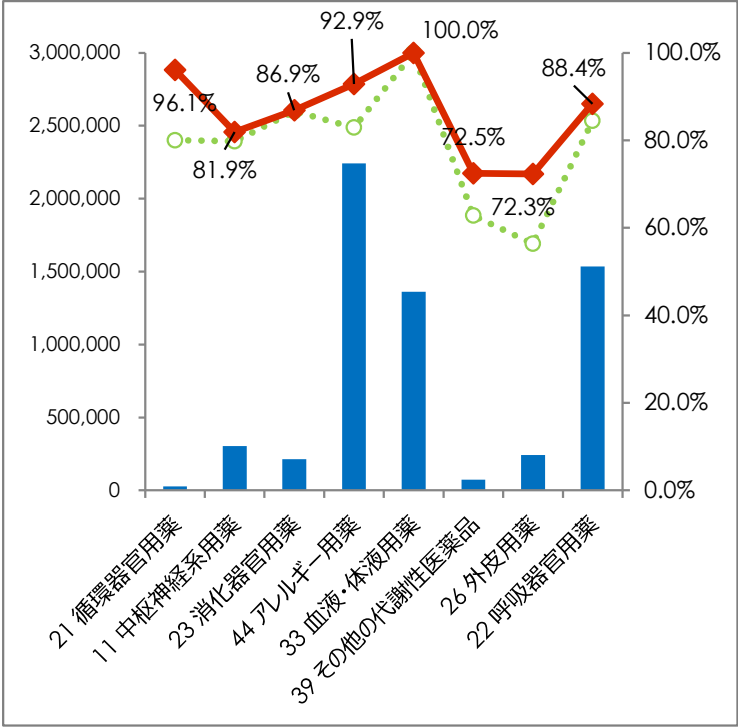
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報



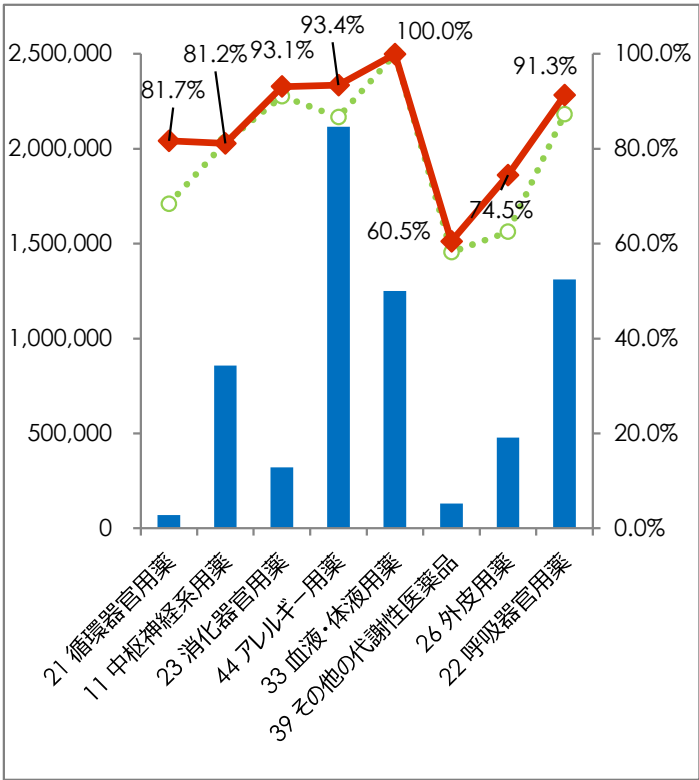
0～4歳の使用数量と使用割合



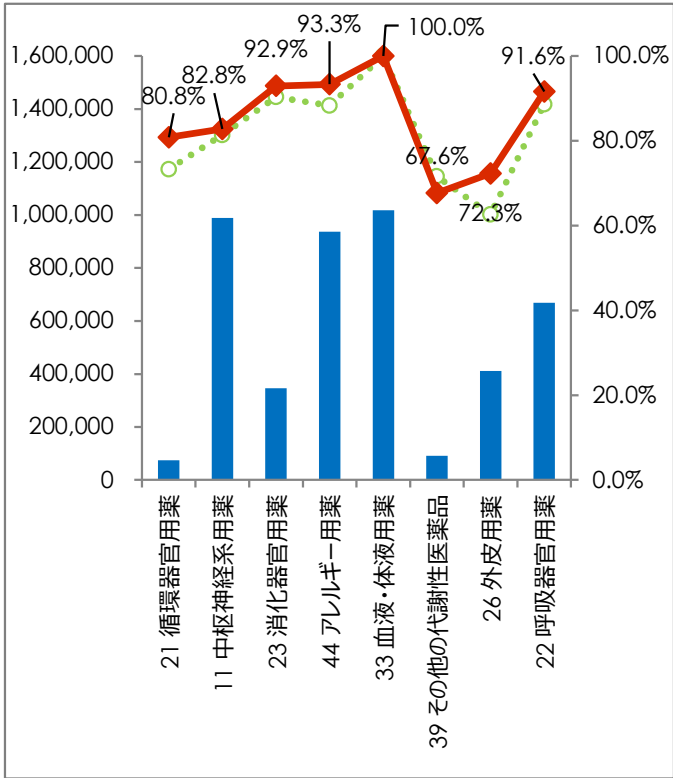
5～9歳の使用数量と使用割合



10～14歳の使用数量と使用割合

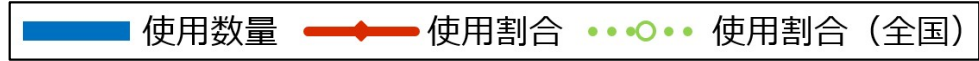


15～19歳の使用数量と使用割合

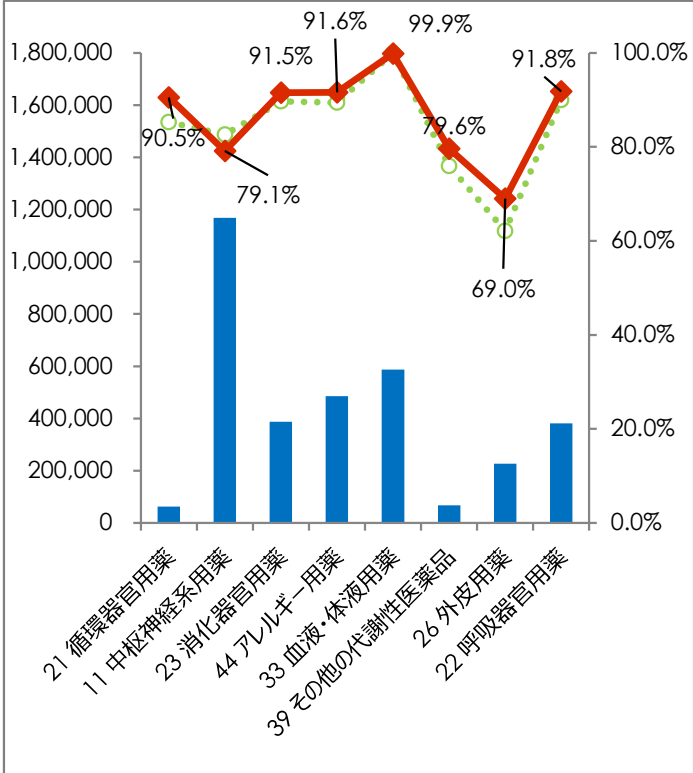


年齢階級別・薬効分類別の使用割合

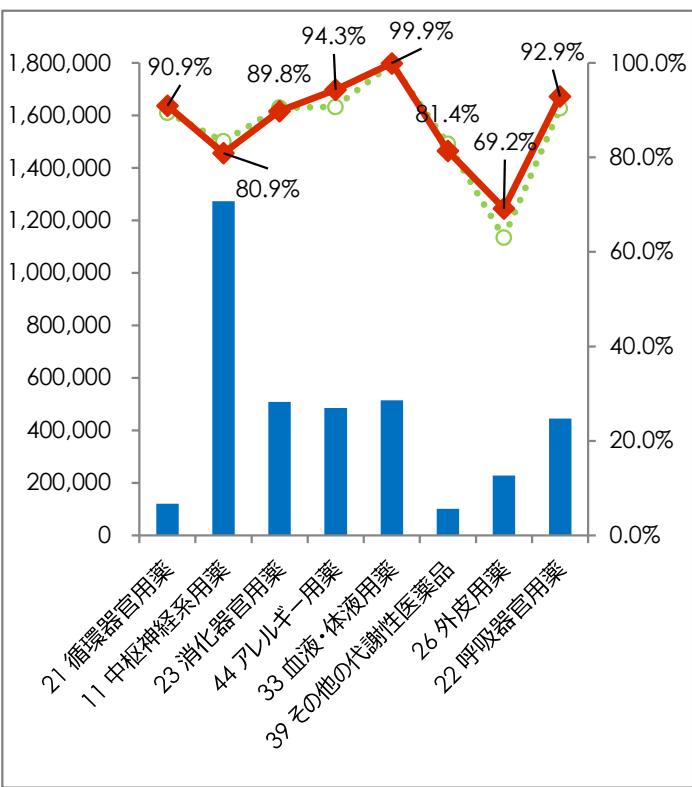
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報



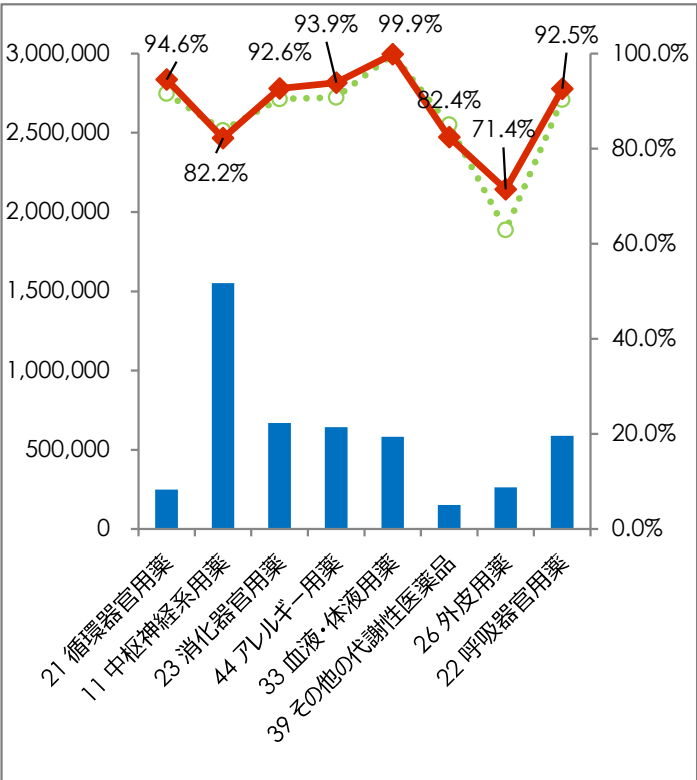
20～24歳の使用数量と使用割合<再掲>



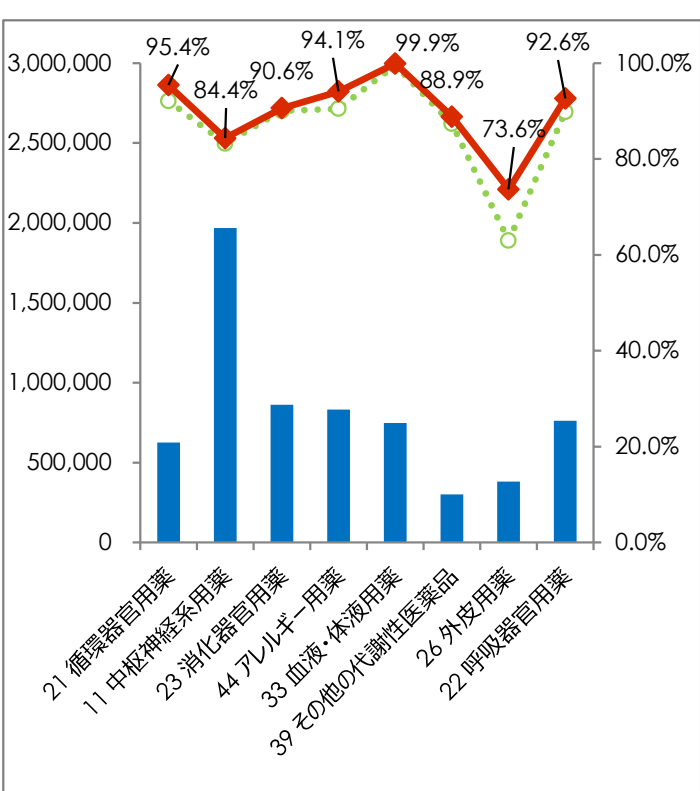
25～29歳の使用数量と使用割合<再掲>



30～34歳の使用数量と使用割合



35～39歳の使用数量と使用割合

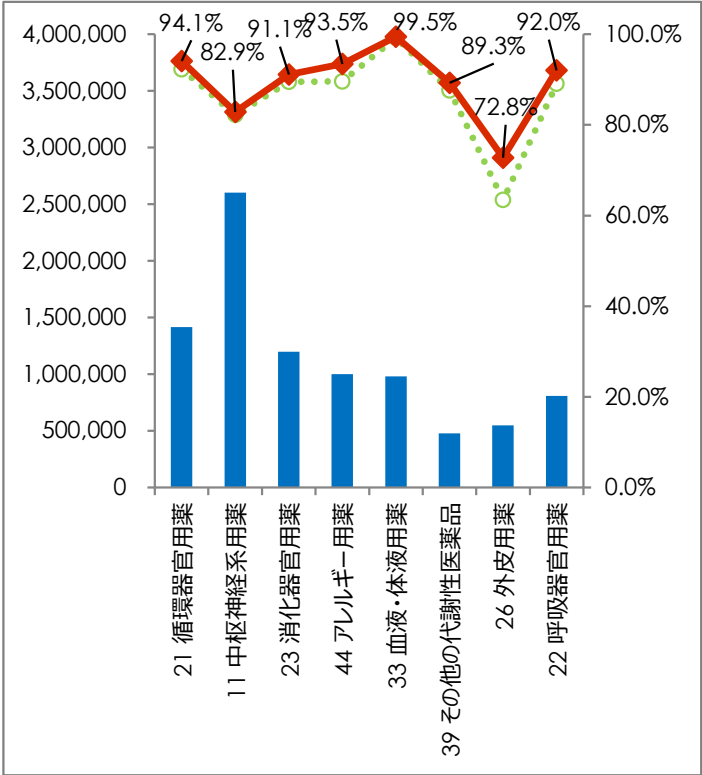


年齢階級別・薬効分類別の使用割合

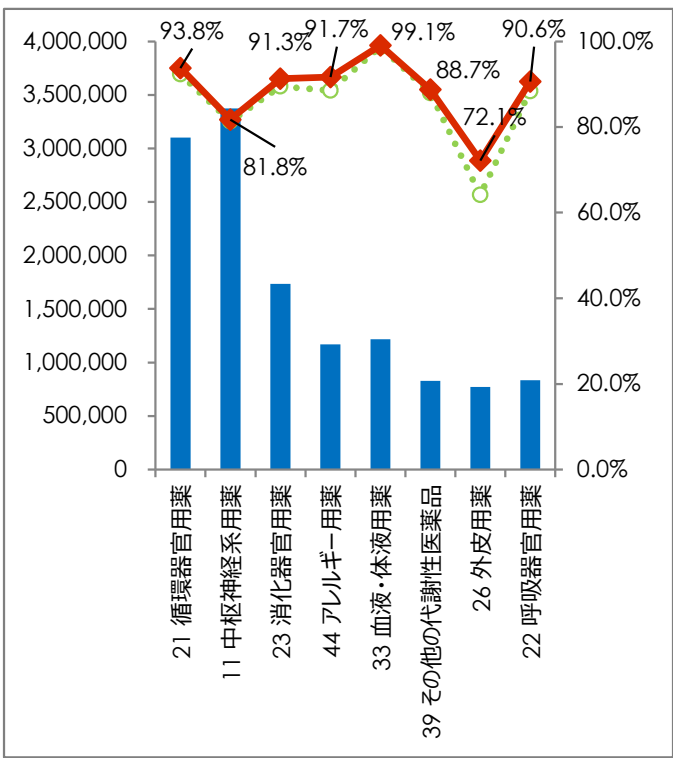
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報

■ 使用数量 ◆ 使用割合 ● 使用割合（全国）

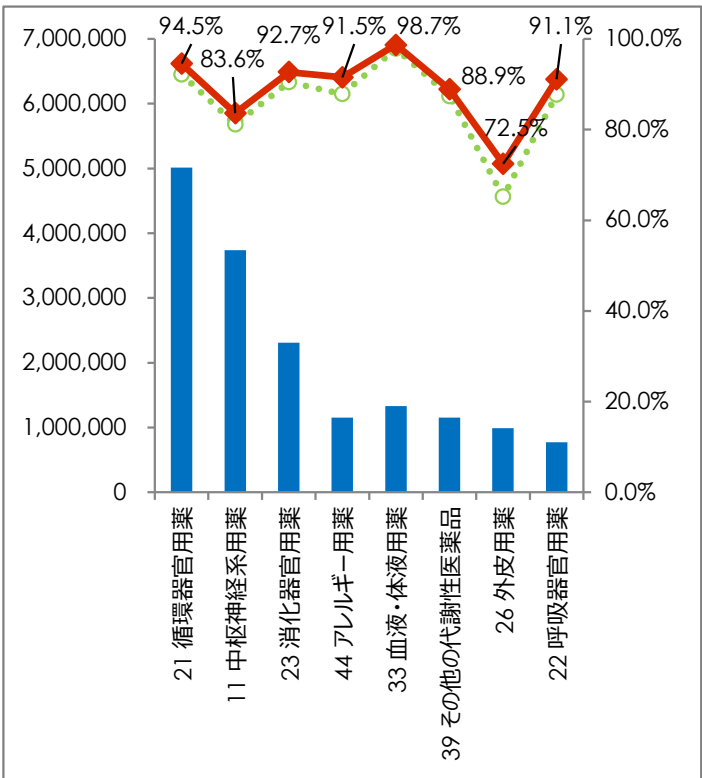
40～44歳の使用数量と使用割合



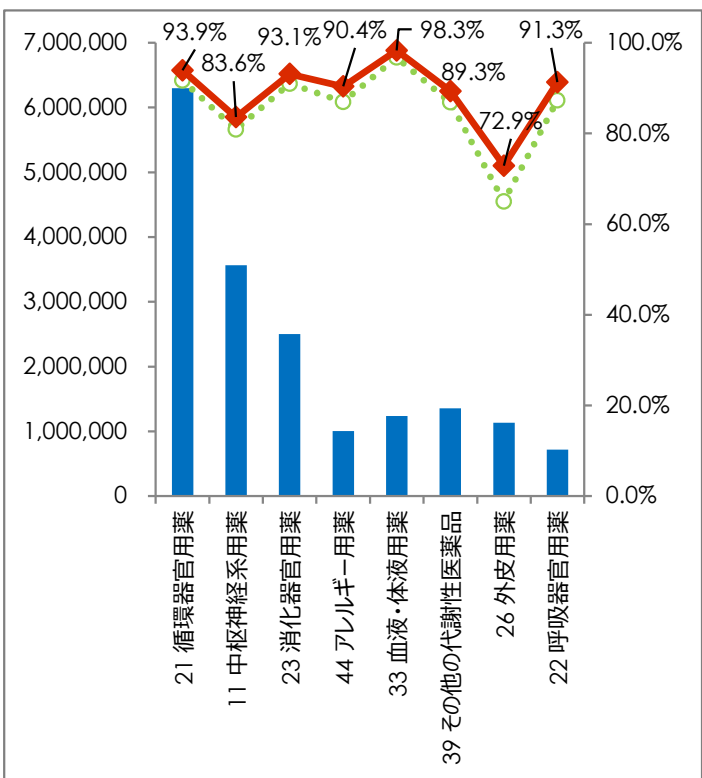
45～49歳の使用数量と使用割合



50～54歳の使用数量と使用割合

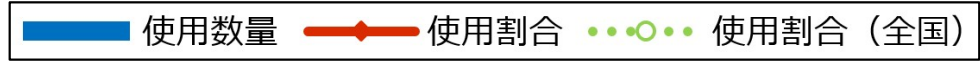


55～59歳の使用数量と使用割合

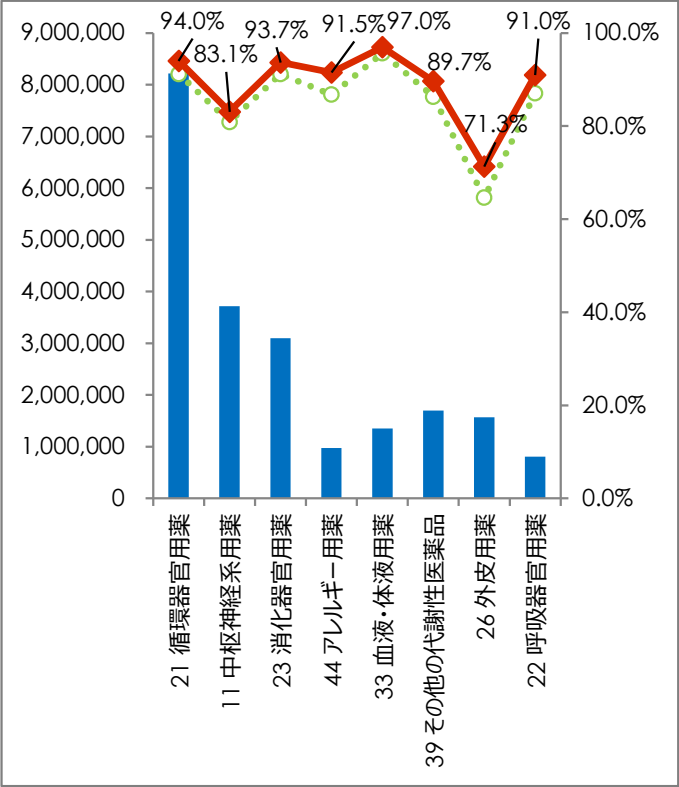


年齢階級別・薬効分類別の使用割合

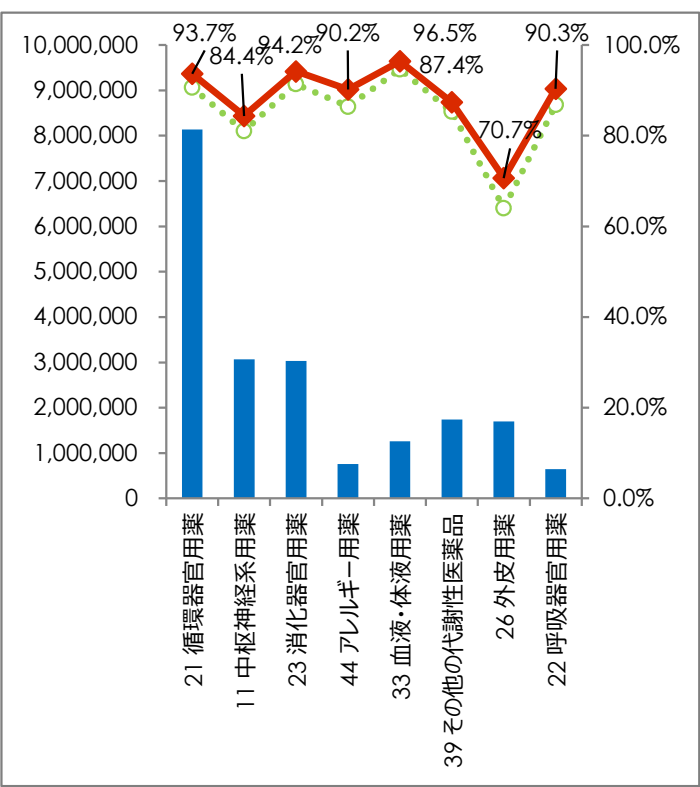
使用データ：先発医薬品後発医薬品基本情報



60～64歳の使用数量と使用割合



65～69歳の使用数量と使用割合



70～74歳の使用数量と使用割合

